

国立公園 満喫プロジェクト 取組事例集



令和 4 年 3 月

表紙掲載写真

1	2	3
4		5
6	7	8

1. 川湯エコミュージアムセンター（阿寒摩周国立公園, p.15）
2. 自籠岩でのガイドツアー（十和田八幡平国立公園, p.25）
3. 那須平成の森フィールドセンター内のカフェ（日光国立公園, p.31）
4. 横山天空カフェテラス（伊勢志摩国立公園, p.35）
5. 大山寺参道の商業施設（大山隠岐国立公園, p.37）
6. あざみ台展望所での民間劇団の上演（阿蘇くじゅう国立公園, p.49）
7. 佐多岬展望台（霧島錦江湾国立公園, p.55）
8. 「青のゆる館」の展示スペース（慶良間諸島国立公園, p61）

取組事例一覧表

	阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐
1. 受入環境整備					
① 基盤整備	阿寒摩周国立公園を中心とするトレイルネットワークの推進 (p.3)				
	統一した Uni-Voice コードの採用 (p.5)				
② コンテンツの磨き上げ・受入体制強化	硫黄山のガイド付き限定トレッキングツアーの開発 (p.7)	冬季コンテンツ造成とイベントの連動による宿泊促進 (p.19)	ビジターセンターとの連携による観光案内機能の強化 (p.27)		
③ 引き算の景観改善	廃屋撤去による川湯温泉の再生 (p.9)	休屋における廃屋撤去・景観改善 (p.21)	通景伐採による景観改善 (p.29)		大山寺参道における景観改善とエリア活性化 (p.37)
④ 人材育成	冊子「自然の郷ものがたり」の作成 (p.11)				
⑤ 利用者負担による保全の仕組み作り		薦沼でのキャパシティコントロールによるオーバーツーリズム対策 (p.23)			オオサンショウウオ保全ツアーの開発 (p.39)
		十和田信仰ガイドツアーの開発 (p.25)			
2. 民間活用によるサービス向上					
① 多様な宿泊体験の提供					三瓶山麓でのグランピング開発 (p.41)
② 公共施設の民間開放	国・道・町の3者による公設野営場の連携及び民間活用 (p.13)		ビジターセンター等における地元カフェ・店舗の出店 (p.31)	横山天空カフェテラスの開発 (p.35)	
	川湯EMCへのカフェ導入 (p.15)				
③ 民間事業者との連携					
3. プロモーション					
					国際パークサポーターズの組織化と情報発信 (p.43)
4. 関係省庁や地域との連携					
	夜のコンテンツ充実～カムイルミナ (p.17)		奥日光におけるナイトタイムコンテンツの開発 (p.33)		

	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	その他の公園	環境省本省
1. 受入環境整備					
① 基盤整備		佐多岬での国・県・町と連携した展望台・エントランス整備 (p.55)	ニシバマテラス等の展望台整備 (p.59)	支笏湖ビジターセンターにおけるVRプログラムの開発 (p.63, 支笏洞爺)	
② コンテンツの磨き上げ・受入体制強化	アクティビティ事業者のキャッシュレス化 (p.45)	桜島におけるガイドツアー開発とガイド組織設立 (p.57)		ライチョウ観察ルールブック制作と観察ツアー試行 (p.67, 中部山岳)	
③ 引き算の景観改善				商店街エリアの電線地中化による景観改善 (p.65, 支笏洞爺)	
④ 人材育成					
⑤ 利用者負担による保全の仕組み作り	費用の一部を草原維持に還元する体験プログラムの実施 (p.47)			妙高山・火打山における入山協力金導入 (p.69, 妙高戸隠連山)	
2. 民間活用によるサービス向上					
① 多様な宿泊体験の提供					
② 公共施設の民間開放	あざみ台展望所を舞台とした民間劇団の上演 (p.49)				
③ 民間事業者との連携			座間味島「青のゆくる館」の民間事業者による管理運営 (p.61)		オフィシャルパートナーとの連携 (p.73)
3. プロモーション					
	阿蘇くじゅうNPを紹介する番組を放送 (p.51)				
4. 関係省庁や地域との連携					
	地方整備局、NEXCOと連携した国立公園プロモーション (p.53)			志賀高原におけるナイトタイム利用の促進 (p.71, 上信越高原)	

-目次-

1. はじめに	1
2. 各国立公園における取組事例	2
阿寒摩周国立公園	3
阿寒摩周国立公園を中心とするトレイルネットワークの推進	3
統一した Uni-Voice コードの採用	5
硫黄山のガイド付き限定トレッキングツアーの開発	7
廃屋撤去による川湯温泉の再生	9
冊子「自然の郷ものがたり」の作成	11
国・道・町の3者による公設野営場の連携及び民間活用	13
川湯エコミュージアムセンター（EMC）へのカフェ導入	15
夜のコンテンツ充実～カムイルミナ	17
十和田八幡平国立公園	19
冬季コンテンツ造成とイベントの連動による宿泊促進	19
休屋における廃屋撤去・景観改善	21
蕨沼でのキャパシティコントロールによるオーバーツーリズム対策	23
十和田信仰ガイドツアーの開発	25
日光国立公園	27
ビジターセンターとの連携による観光案内機能の強化	27
通景伐採による景観改善	29
ビジターセンター等における地元カフェ・店舗の出店	31
奥日光におけるナイトタイムコンテンツの開発	33
伊勢志摩国立公園	35
横山天空カフェテラスの開設	35
大山隠岐国立公園	37
大山寺参道における景観改善とエリア活性化	37
オオサンショウウオ保全ツアーの開発	39
三瓶山麓でのグランピング開発	41
国際パークサポーターズの組織化と情報発信	43
阿蘇くじゅう国立公園	45
アクティビティ事業者のキャッシュレス化	45
費用の一部を草原維持に還元する体験プログラムの実施	47
あざみ台展望所を舞台とした民間劇団の上演	49
阿蘇くじゅう NP を紹介する番組を放送	51
地方整備局、NEXCO と連携した国立公園プロモーション	53
霧島錦江湾国立公園	55
佐多岬での国・県・町と連携した展望台・エントランス整備	55
桜島におけるガイドツアー開発とガイド組織設立	57

慶良間諸島国立公園	59
ニシバマテラス等の展望台整備	59
座間味島「青のゆるる館」の民間事業者による管理運営	61
支笏洞爺国立公園	63
支笏湖ビジターセンターにおける VR プログラムの開発	63
商店街エリアの電線地中化による景観改善	65
中部山岳国立公園	67
ライチョウ観察ルールブック制作と観察ツアー試行	67
妙高戸隠連山国立公園	69
妙高山・火打山における入山協力金導入	69
上信越高原国立公園	71
志賀高原におけるナイトタイム利用の促進	71
環境省本省	73
オフィシャルパートナーとの連携	73

1. はじめに

■国立公園満喫プロジェクトについて

2016年3月、政府は、成長戦略と地方創生の柱として、観光を我が国の基幹産業へと成長させるべく、「明日の日本を支える観光ビジョン」を取りまとめました。環境省では、同ビジョンに基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に、先行的、集中的に取り組を進める8つの国立公園（先行8公園）を中心に「国立公園満喫プロジェクト」を開始しました。さらに、2020年までに国立公園を訪れる外国人を1,000万人にすることを目標として、訪日外国人利用者が多い富士箱根伊豆、支笏洞爺、中部山岳の3つの国立公園を「先行8公園に準じる公園」として指定し、利用拠点の多言語化、自然体験コンテンツの充実、公共施設の官民連携によるサービス向上、廃屋撤去等の景観改善等、受入環境整備や各種プロモーション等の取組を進めてきました。

2021年以降は、国立公園満喫プロジェクトの新たな展開として、自然を満喫できる質の高いツーリズムの実現とブランド化を目指すとともに、国内外の利用者を新型コロナウイルス影響前までに回復させることを目指し、取組を全ての国立公園へ拡大するとともに、国内誘客の強化、ワーケーションなど国立公園の新しい利用価値の提供、脱炭素化等の推進によるサステナブルツーリズムの実現などを進めています。これまでの実績を伸ばして更に磨き上げを行い、地域の経済活性化と自然環境保全へとつなげていきます。

■取組事例集の作成にあたって

「国立公園満喫プロジェクト取組事例集」は、先行8公園等における先進的な取り組みによって得た成果・知見を、他の地域にも波及させる目的で作成しました。今後のみなさまの活動の参考としてお役立てください。

■事例の選定について

掲載事例は国立公園満喫プロジェクトで集中的な取り組みを行っている公園を中心に、先進的な取組事例を4つのテーマに沿って選定しました。これらのテーマは、国立公園満喫プロジェクトの中で、先行8公園から重点的に取組を実施し、成果を踏まえて、全国の国立公園へ展開していくことを想定し設定されたものです（下図）。



国立公園満喫プロジェクトにおけるテーマ別の取組の全体構成

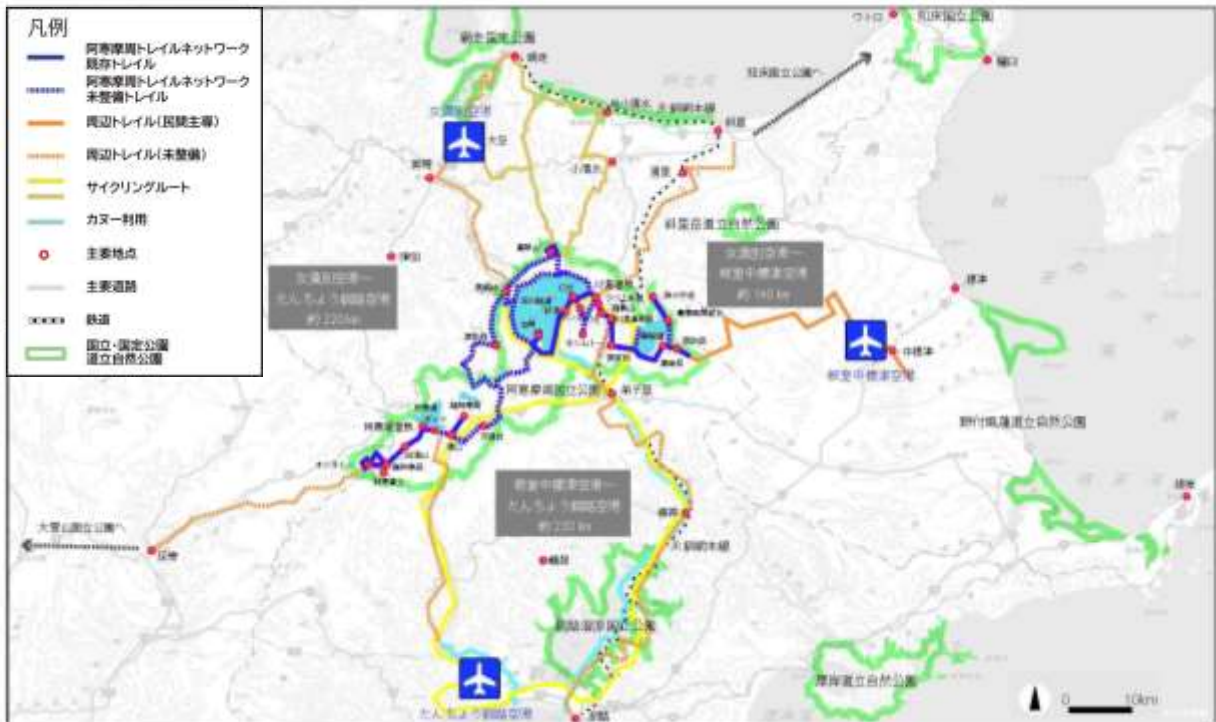
2. 各国立公園における取組事例



本事例集で取り上げた国立公園（番号は掲載順を示す）

阿寒摩周国立公園を中心とするトレイルネットワークの推進

- ・「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025」に基づき、トレイルとそのネットワークを整備し、インバウンド利用、長期滞在利用を推進する取組が進められている。
- ・公園内には登山道や遊歩道など整備された既存歩道があるが、ネットワークとしてつながっておらず、長く歩いて旅をすることが想定された公園計画ではない。
- ・公園内のトレイルを充実させることで、現在中心となっている点在する観光スポットを短い滞在時間で周遊するスタイルから、長期滞在しながらゆっくりと国立公園の自然を満喫するスタイルへの転換を図っている。



トレイルネットワーク構想図

国立公園内のトレイルネットワークおよび公園外を含めたロングトレイルの構築を見据え、活用が期待される未整備歩道の現況や課題、また先行事例からトレイルネットワーク構築に向けた課題を整理し、地域の関係者と連携しながら形成していく将来的なトレイルの構想を策定している。



トレイルルート調査の様子



多言語対応のトレイルガイド&マップ

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
阿寒摩周国立公園全域及び周辺地域（釧路湿原国立公園・知床国立公園）
- 管理主体：
環境省、国土交通省、林野庁、北海道、関係市町



II. 取組の経緯

- ステップアッププログラム 2020 の取組として、地域の魅力を生かしたロングトレイルやサイクリングロードの設定が計画された。トレイルネットワークの形成については、ステップアッププログラム 2025 の行動計画にも重点的な取組として、位置付けられている。
- 中間評価を踏まえ、今後の加速する取組として挙げられた「阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成」を推進するため、既存トレイルのマップ作成や設置された看板・標識などの設置状況を把握。統一的な看板・標識デザインマニュアルを作成した。
- トレイルネットワークの形成を実現するための指針として、「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想」と「阿寒摩周国立公園トレイル標識整備及び維持管理に関するガイドライン」を策定した。

【取組年表】

2019年12月

満喫プロジェクトの中間評価を受けて、ステップアッププログラムを改定。ターゲットをアドベンチャー・トラベル市場に定める。

2019年度～2020年度

既存のトレイル調査とともに、各トレイルのレベルを決定してマップを作成。あわせて既存トレイルに設置された看板・標識などの調査と設置状況を把握。新規トレイルは、実踏査を行った上で、トレイルの魅力や課題を整理し、これらを参考に、公園計画を変更。2020年度にはステップアッププログラム 2025 を策定し、トレイルネットワークの形成が行動計画の1つとして掲げられている。

III. 取組成果・ポイント

- 多くの利用者が歩いている既存のトレイルについて、見所や所要時間、レベル、入口までのアクセスなどを示したマップを一元的に作成し、利用者にわかりやすい情報提供に努めている。マップに関しては日英表記のものを作成。
- 阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想の一部コースが、2020年10月に「摩周・屈斜路トレイル」としてオープンした。その他、屈斜路湖外輪山のトレイル（藻琴山～美幌峠～津別峠）については、2020年度に環境省の補正予算等も活用しながら草刈りを行い、調査道を完成させた。
- トレイルの標識に関してデザインの統一や多言語化の指針を定めた他、景観を損ねる看板の撤去を進めることで公園のブランド力を向上させると同時に利用者の利便性と安心感を引き続き高めていく。
- トレイルの統一的な情報発信により、利用者の滞在日数の増加及びリピーターの増加や阿寒地域と摩周地域の回遊の可能性を高めていく。
- 既存のトレイルと新規のトレイルをつなぎ、ネットワーク化することで、利用者の地域内でのより長期的な滞在、地域経済への貢献や地域住民との交流などを推進する。



トレイル標識等のデザイン例



藪をかき分けてのルート調査

IV. 今後の課題・改善点

- トレイルネットワーク構想実現のためには、持続可能な維持管理体制の構築が鍵であり、国立公園に関わる自治体、歩道を実際に管理する団体等、国有林（林野庁）、国道や道道との協議をさらに進め、広域な関係者と連携していくことが必要となる。
- 阿寒摩周国立公園を端から端まで歩けるようにし、将来的にはひがし北海道の3空港をロングトレイルとしてつなげていくことを目指す。

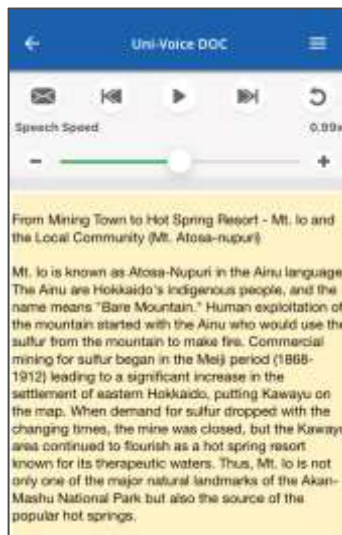
統一した Uni-Voice コードの採用

- ・「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2020」の課題の一つとして、訪日外国人を含むより多くの利用者を迎えるために、公園利用施設等の再整備を通じて、利便性や快適性を向上させることが挙げられていた。
- ・ステップアッププログラムの取組として、多言語に対応した解説看板や標識の整備にあたっては共通のモバイルアプリ（Uni-Voice）を活用することとした。
- ・国立公園内にはネット環境のない場所も多いが、事前にアプリをダウンロードしておくことで、オフラインで使用することができることから、多言語解説の整備、充実が図られている。



自然探勝路入口の案内看板（赤枠部分が Uni-Voice コード）

Uni-Voice は、二次元コードである Uni-Voice コードを読み取ることで、Uni-Voice に格納された文字情報を音声で読み上げると同時に、テキストにて画面表示される。視覚障がい者だけでなく、訪日外国人への情報提供にも活用することができるため、国立公園の案内板やビジターセンターの展示にも使用されている。



iOS



Android

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
阿寒摩周国立公園全域
- 整備主体：
環境省、北海道、関係市町



II. 取組の経緯

- 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2020」の取組として、多言語に対応した解説看板や標識は関係機関で連携を図り整備していくこととした。
- 園地や自然歩道の解説板や標識等の多言語化が課題であったことから、国立公園に関係する自治体および観光協会等で構成される阿寒摩周国立公園広域観光協議会において、多言語化にあたっては共通のモバイルアプリ（Uni-Voice）を活用することを合意した。
- 観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」にて作成した英語解説文等を元に、北海道、関係自治体、環境省等により各施設やビューポイント等で Uni-Voice コードを活用した整備を順次実施中。

【取組年表】

- | | |
|----------|---|
| 2016年12月 | 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会で「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステッププログラム 2020」を策定 |
| 2017年09月 | 多言語化にあたっては、共通のモバイルアプリ（Uni-Voice）を活用することを合意 |
| 2018年～現在 | 各施設やビューポイント等でUni-Voiceコードを活用した整備を順次実施中 |

III. 取組成果・ポイント

- 国立公園内ではネット環境のない場所も多く、事前にダウンロードしておけば、Wi-Fi 無しでも読み取ることの出来る Uni-Voice が適している。広域で整備することで、来訪者が同じアプリケーションを使ってストレスなく公園のストーリーを楽しむことが出来るようになっている。
- 標識に多言語の解説文を全て表示することなく、小さな盤面で整備が可能のため、景観の保全にも役立っている。
- 既存の展示解説や看板標識を作り直す事なく、小さな二次元コードを張り付けるだけなので、低コストで多言語化が可能となった。



Uni-Voice 展示施設での解説文 1



Uni-Voice 展示施設での解説文 2

IV. 今後の課題・改善点

- アプリの利用を促進するため、ダウンロードする場所の周知徹底が必要となる。
- 二次元コードの作成の前の段階である多言語化にかかる費用が大きい。観光庁事業等を活用して質の高い多言語による解説文を作成する。

硫黄山のガイド付き限定トレッキングツアーの開発

- ・硫黄山（アトサヌプリ）では、岩肌から常時噴気があがり、黄色の硫黄結晶がいくつも見られ、ダイナミックな景観を楽しむことができる。
- ・一時、入山禁止となっていた硫黄山の登山再開について地元が主体となって検討し、エコツーリズム推進法の枠組みを活用することで、認定ガイド付きでのみ登山が可能になる仕組みを整えた。
- ・トレッキングツアーの料金の一部を町内の登山道や自然歩道の整備活動に充てるなど、資源を持続的に利用するための体制が構築されている。



トレッキングツアーの募集広告

弟子屈町のシンボルの1つである硫黄山は20年前の落石事故を契機に入山措置がとられていた。エコツーリズム推進法に基づき策定された「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の中で、「硫黄山の噴気孔」を特定自然観光資源に指定し、独自の入山制限を行うことでトレッキングツアーを可能とした。「てしかがえこまち推進協議会」から特別に許可を得た認定ガイドによる硫黄山の自然や歴史の解説を聞くことができる。



認定ガイド付きツアーの様子



硫黄山の噴気孔

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒088-3461
北海道川上郡弟子屈町川湯
- 管理主体：
てしかがえこまち推進協議会
(事務局：弟子屈町)



II. 取組の経緯

- 2000年4月に発生した落石事故で入山禁止となっていた硫黄山の登山再開について、安全な登山ルートや体制作りに向けて現地踏査を含めて地元が主体となって検討。
- 弟子屈町の「てしかがえこまち推進協議会」ではガイド育成のための講習会を実施。
- 硫黄山を保全しながら活用するために、「硫黄山の噴気孔」のエコツーリズム推進法に基づく特定自然観光資源指定に向けて、協議会が主体となって、土地所有者である林野庁を含む関係各所と協議を重ねた。
- 2019年にはガイド認定のための研修を実施したほか、限定モニターツアーとして販売を開始。

【取組年表】

2000年04月	硫黄山にて落石事故が発生。その数か月後に入山禁止の措置
2018年	弟子屈町でガイド育成のための講習会を実施。硫黄山の噴気孔の特定自然観光資源指定に向けて林野庁を含む関係各所と安全対策や事故発生時の対応について協議
2019年05月	地方間でのエコツーリズム全体構想の変更に関する協議を開始
2019年06月	ガイド認定のため研修実施。弟子屈町が林野庁からの土地借り受け手続きを完了
2019年10月	限定モニターツアーとして販売開始
2020年09月	全体構想の変更認定を受け、10月より旅行会社が販売開始

III. 取組成果・ポイント

- 硫黄山については長らく入山が禁止されていたが、土地所有者である林野庁に対し、弟子屈町が安全管理の体制や自然への影響が少ないルートの設定に関して協議を重ねた。さらに、エコツーリズム推進法に基づき策定された「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の中で「硫黄山の噴気孔」を特定自然観光資源に定めることで、認定ガイド付きでのみ登山が可能となった仕組みが画期的だといえる。また同法に基づく特定自然観光資源への立入制限は全国初の取組である。
- ガイドの認定を受けるためには「弟子屈町民であること」や同協議会主催の「硫黄山学」の受講が必須などの基準に則り、地域に根差したガイドの方を認定ガイドとして認定することや、登山ツアーの料金の一部（ツアー参加者1名あたり1,000円）を町内の登山道や自然歩道の整備活動に充てるなど、硫黄山の自然を守りながら活用していく体制が構築されている。
- 一般客は立ち入り不可能な部分を認定ガイド付きで歩くことで、噴気孔や硫黄結晶を間近にみるができる。



ツアーでの見どころである爆裂火口

IV. 今後の課題・改善点

- 特定自然観光資源の保護及びガイド育成のために、ツアー実施者による簡易モニタリングと、専門家による定期モニタリングを実施することで、ツアーの実施方法やルールの更なる改善や、年間利用者数の随時見直しを行っていく。
- 冬季の利用なども視野に入れ、ツアーのバリエーションを増やしていくことが今後の展望。

廃屋撤去による川湯温泉の再生

- 川湯温泉には廃業や休業した宿泊施設等が点在し、国立公園の利用の拠点として景観的な問題を抱えていた。
- 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトの一環で、川湯温泉街の景観向上を図るため、弟子屈町と連携しつつ廃屋の撤去に着手。跡地については、民間事業者による活用を検討中。
- 温泉街全体の再生のためには周辺の廃屋も含めて撤去する必要があるとあり、交渉や撤去費用など人的、金銭的な負担が膨大となることが課題。



旧華の湯ホテル

「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト」の一環である景観改善において、廃業していた「旧華の湯ホテル」が2020年9月末に解体された。その跡地では、今後の川湯温泉街の再生を願い、様々な取組を推進していくきっかけとして、キックオフイベント「KAWaaaaRu 川湯」を翌10月に開催した。イベントでは飲食が提供された他アイヌ古式舞踊や川湯ばやしが披露された。



「旧華の湯ホテル」跡地



KAWaaaaRu 川湯の開催

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒088-3465
北海道川上郡弟子屈町川湯温泉
- 主体：
環境省、弟子屈町



II. 取組の経緯

- 川湯温泉は高度経済成長期に交通網が発達したことで、観光客で大いに賑わうようになった。しかし、バブル経済崩壊の煽りを受け客足が減少したことで、宿泊者数の減少が続き、廃業や休業した宿泊施設等が点在し、施設の廃屋化が問題となっていた。
- 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2020」において、川湯温泉の再生が位置付けられ、弟子屈町が「川湯温泉地区景観整備構想」を策定し、環境省において具体的な検討を開始。
- 2020年9月末に「旧華の湯」が解体され、現在は「旧川湯プリンスホテル」の解体工事が進められており、2021年度中に完了予定。

【取組年表】

- | | |
|----------|--|
| 2017年12月 | 弟子屈町が「川湯温泉地区景観整備構想」を策定し、それを受けて環境省において具体的な検討を開始 |
| 2019年10月 | 「旧華の湯ホテル」の解体が開始 |
| 2020年09月 | 「旧華の湯ホテル」の解体が完了 |
| 2021年度 | 「旧川湯プリンスホテル」の解体工事が進行中で、年度内に完了予定 |

III. 取組成果・ポイント

- 長年地域で懸案となっていた廃屋化したホテルを環境省直轄事業により撤去。
- 環境省の廃屋撤去が呼び水となり、遊歩道整備や温泉川清掃等の自治体、地域の関係者の主体的な取組が加速。
- 廃屋撤去跡地では地域のイベントが開催されており、今後は民間事業者による跡地活用を公募予定。



清掃・撤去の作業前（左）と作業後（右）

廃屋撤去が呼び水となり自治体や地域の関係者が温泉川清掃や使用してない配管の撤去、遊歩道整備を実施した。

温泉川にはかつて各温泉旅館・ホテル等から廃棄されたゴミが大量に埋もれており、川湯地域運営協会を中心に清掃活動を継続中である。川湯温泉のシンボルとして、裸足で歩ける状態を目標としている。

IV. 今後の課題・改善点

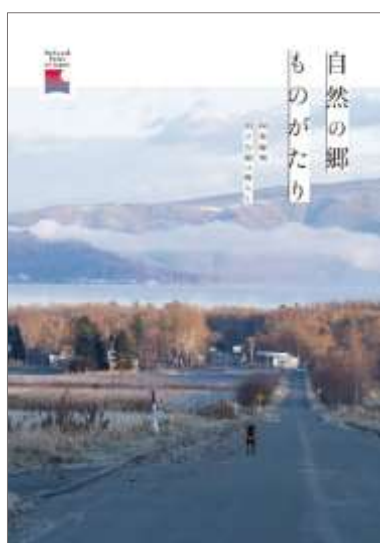
- 温泉街再生のためには廃屋撤去跡地に新たな民間投資を呼び込むことが必要であり、そのためには跡地だけでなく温泉街全体の再生のビジョンを描く必要がある。
- 温泉街全体の再生のためには、現在着手している廃屋以外の周辺の廃屋も含めて撤去する必要があり、関係者との交渉や撤去にはかなりの人的、金銭的資源を要する。

冊子「自然の郷ものがたり」の作成

- 阿寒摩周国立公園周辺に住む地域住民の想いの見える化・共有を行うことで、国立公園周辺に住むことの豊かさや価値観を地域の中で醸成することを目的としてプロジェクトが発足。
- 周辺地域の住民に対してインタビューや座談会などを行い、エピソードや想いを取りまとめた冊子「自然の郷ものがたり」を作成し、地元への全戸配布を行った。
- 旅行者にも目を通してもらうことが、滞在環境の上質化につながると考えられるため、より効果的な周知方法を検討中。



「自然の郷ものがたり」の中身（若手対談）



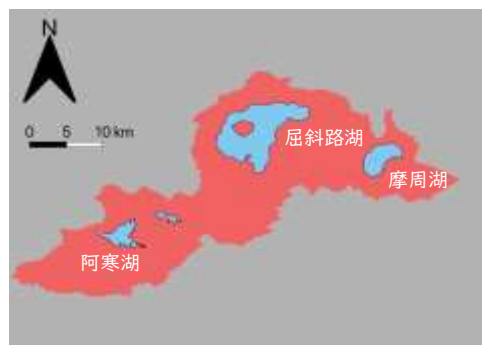
「自然の郷ものがたり」（表紙）

阿寒摩周国立公園内や周辺地域で活躍している住民に対して、インタビューや座談会を実施し、その内容を取りまとめた冊子「自然の郷ものがたり」を作成。2021年3月31日第1刷発行。2022年3月第2弾発行。

I. 取組地域・関係機関

URL (自然の郷ものがたり Web サイト):
<https://note.com/dotdoto/m/m3bb50dea08b5>

- 取組地域：
阿寒摩周国立公園全域
- 発行元：環境省
- 編集元：
一般社団法人 ドット道東



II. 取組の経緯

- これまでの満喫プロジェクトにおいて、ブランド化を図る様々な取組を行ってきたが、地域の人々が国立公園内に暮らしていることに誇りを持つなどといった、インナーブランディングの醸成や地域内での価値観を共有する場面があまりなかった。
- 阿寒摩周国立公園内と周辺地域で活躍されている方々に対してインタビューや座談会などを行い、国立公園と自分たちの暮らしの関わりについてのエピソードや想いを取りまとめた冊子である「自然の郷ものがたり」を作成。

【取組年表】

- | | |
|---------|---|
| 2017 年度 | 日本の国立公園の持つ価値や魅力を強く発信していくことを目的に、国立公園のブランドスローガン「その自然には、物語がある」を作成 |
| 2020 年度 | 「自然の郷ものがたり」を作成し、弟子屈町及び阿寒湖温泉で全戸配布（約 5,000 部）を行った。 |
| 2021 年度 | 「自然の郷ものがたり Vol.1」の増刷（2,400 部）を実施し、宿泊施設等に設置依頼。2021 年度は「自然の郷ものがたり vol.2」を作成するため、10 月からインタビューを開始 |

III. 取組成果・ポイント

- 地域の方一人ひとりが、この地域の魅力や価値を実感・再認識し、自分たちの言葉で阿寒摩周国立公園及び周辺地域の魅力を訪れた方々に対して伝えられるようになることを目的とし、弟子屈町及び阿寒湖温泉で全戸配布（約 5,000 部）を行った。
- 阿寒摩周国立公園内にある阿寒地域と摩周地域のそれぞれで活動する観光事業者による座談会の様子や、阿寒観光協会まちづくり推進機構や観光協会等の地域団体だけでなく、地元住民に対してのインタビューを行い、故郷への思いや生活の中で見つけた宝物など、それぞれの声が掲載されている。
- 旅行で訪れた方々にも、国立公園と地域の方々の暮らしの関わりについて知ってもらうべく、宿泊施設の各部屋（約 1,900 部屋）に設置を依頼した。
- インタビュー記事の一部は、web 上でも公開中である。2021 年度には「自然の郷ものがたり vol.2」の作成が決定しており、現在インタビューを実施している。



インタビュー風景



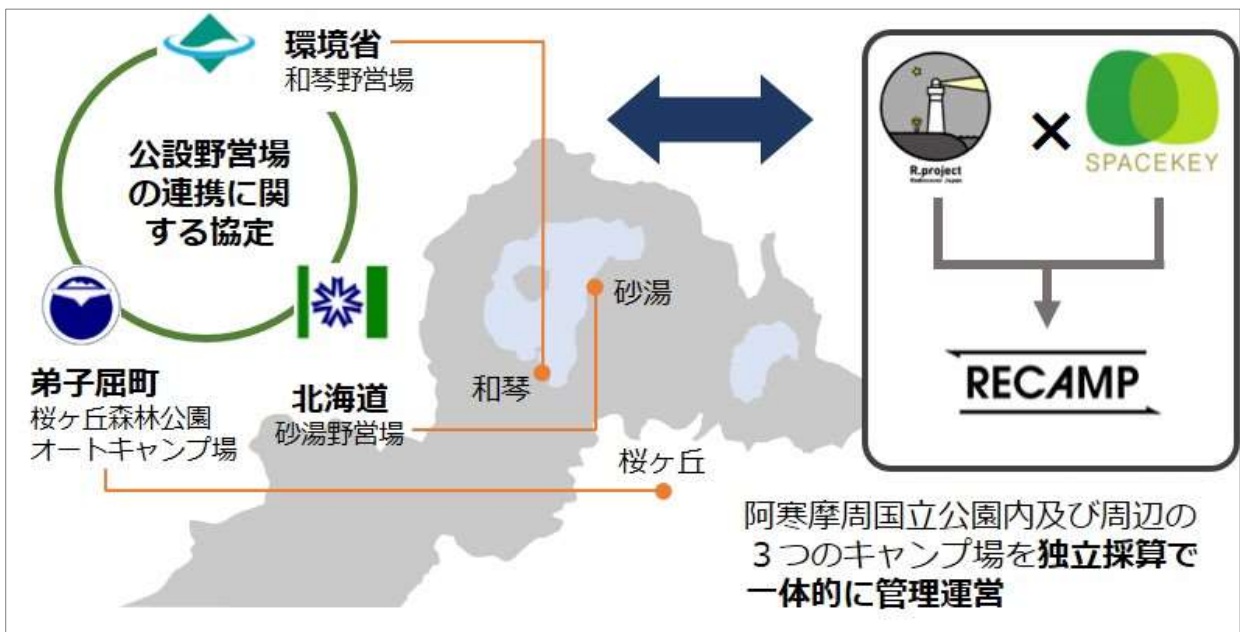
宿泊施設の各部屋にも設置

IV. 今後の課題・改善点

- 今後の展開として、次年度以降も冊子の作成を行うなど、長期間にわたって継続していく必要がある取組である。インナーブランディングの強化を行うほか、地域の方の思いやエピソードのアーカイブ化を図る。
- 作成した冊子をより多くの旅行者にゆっくりと読んでもらい、国立公園に暮らしている方の想いを知っていただくことで、滞在環境の上質化につながると考えられることから、より効果的な周知方法を検討する。

国・道・町の3者による公設野営場の連携及び民間活用

- ・環境省、北海道、弟子屈町がそれぞれ整備したキャンプ場の管理運営について連携協定を締結した上で、3施設を一体的に民間事業者が運営する体制に転換した。
- ・公募により野営場を管理する民間事業者を選定し、民間のノウハウを活用したサービス向上に取り組む、WEB予約システムの導入やアクティビティプログラムの提供などを行った。
- ・野営場が閉鎖するオフシーズンが長く、その期間における収益確保と人材雇用が課題であるため、民間事業者による冬季のプログラム開発などを検討中。



民間と連携した公設野営場の一体管理



キャンプ場の様子（和琴）



キャンプ場でのレンタル品（キッチンセット）

環境省、北海道、弟子屈町は、それぞれが整備したキャンプ場の管理運営について、連携・協力するため、「阿寒摩周国立公園及び弟子屈町内の公営野営場の連携に関する協定」を締結。阿寒摩周国立公園及び周辺のキャンプ場を独立採算で一体的に管理運営。

【補足説明】

「株式会社 R.project」と「株式会社スペースキー」はキャンプ場の開発や企画運営を行う合弁会社「株式会社 Recamp」を2019年4月に設立。2021年には、両社が資本提携を結び、スペースキーがR.projectの株式の一部取得。スペースキーとの合弁会社 Recamp は R.project の 100%子会社となった。

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
 - 【和琴野営場】 弟子屈町字屈斜路和琴 ※対象となる野営場の位置は、前ページの地図を参照
 - 【砂湯野営場】 弟子屈町砂湯
 - 【桜ヶ丘森林公園オートキャンプ場】 弟子屈町桜丘2丁目61-1
- 管理主体：環境省、北海道、弟子屈町
- 運営主体：株式会社 Recamp



キャンピングデッキサイト（和琴）

II. 取組の経緯

- 満喫プロジェクトでは、民間と連携した国立公園のサービス向上が重点的な取組として位置づけられていた。
- 環境省、北海道、弟子屈町は、それぞれが整備したキャンプ場の管理運営について、連携・協力するため、2019年12月に「阿寒摩周国立公園及び弟子屈町内の公営野営場の連携に関する協定」を締結。
- この協定に基づき、一体的な管理運営を図るため民間事業者の公募等を行った結果、株式会社 Recamp を3ヶ所のキャンプ場の管理運営者として決定した。

【取組年表】

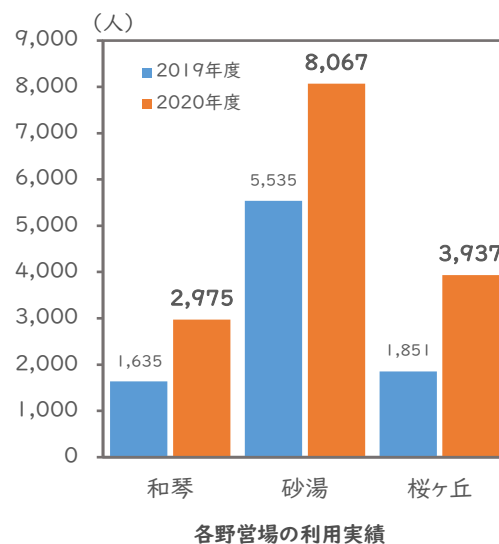
2018年	和琴野営場において、民間事業者（ワンドートランク社）と連携し、閑散期の有効活用方策の検討としてグランピングを試行
2019年12月	環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結
2020年04月	公募によって事業者が株式会社 Recamp に決定
2020年06月	一括運営開始

III. 取組成果・ポイント

- 同エリアにある環境省、北海道、弟子屈町の公設野営場3施設について、連携して一体的に管理ができるように協定を締結。
- その上で、公募により野営場を管理する民間事業者を選定し、民間のノウハウを活用したサービスを提供。
- WEB 予約システムの導入、レンタルギアの提供、アクティビティの提供などのサービス品質の向上が図られ、集客力及び売上げが向上。



焚き火体験会



IV. 今後の課題・改善点

- 野営場が閉鎖するオフシーズン（11月～4月）が長く、その期間における収益確保と人材雇用が課題である。
- 自然のアクティビティやアウトドアを楽しむ層をターゲットとし、現在の体験アクティビティ（カヌー、ホーストレッキング等）とセットにした新たな魅力の提案を誘引することで、利用客の増加を目指す。
- 東京に本社を置く民間事業者であるため、地域とのコミュニケーションを深め、地域活性化への貢献や地域の理解をより広げていく必要がある。

川湯エコミュージアムセンター（EMC）へのカフェ導入

- ・ 満喫プロジェクトにおける「公共施設の民間開放」という課題に対応するため、川湯エコミュージアムセンター（以下、川湯 EMC）の2階を改修し、カフェスペースを整備。
- ・ 国立公園の環境省直轄ビジターセンターとしては、民間事業者を公募してカフェを運営するのは初めての事例。飲食の提供だけでなく、地域の自然情報や観光情報を提供する「コンシェルジュカフェ」がコンセプト。
- ・ カフェの運営自体は収益性が高くなく、公的な役割も求められる中で、民間事業として継続的、安定的に運営できるかが課題。



川湯 EMC の外観

川湯 EMC は、阿寒摩周国立公園摩周・屈斜路地域の中で、自然と人間との繋がりを考え、体験することを目的とした施設とフィールドが一体となった施設となっている。国立公園満喫プロジェクトにおける民間活用を推進するため、人や情報が集まる空間となるようカフェスペースやツアーデスクを新たに整備し、官民連携でのサービス向上に取り組んでいる。



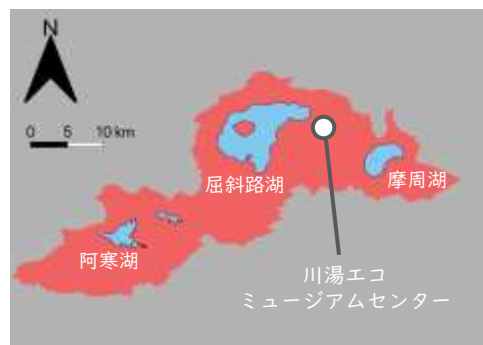
カフェスペース



地元の素材を使った軽食を提供

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒088-3465
北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6
- 管理主体：環境省
- 運営主体：
一般社団法人
ナショナルパークスジャパン



II. 取組の経緯

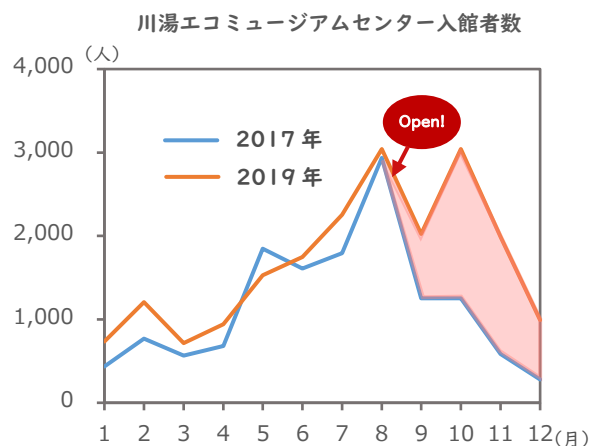
- 川湯 EMC は環境省が 1999 年 4 月に設置したもので、国立公園の東側に位置する川湯・屈斜路・摩周を対象フィールドとして、情報提供に加え、自然体験活動等の実施を通じて人と人のふれあいを促進してきた。
- 旅行者や地元同士交流の場の創出および摩周地域の自然や文化、食べ物などの魅力発信を目的とし、上質な時間を過ごしてもらうため、カフェコーナーを整備。
- その後の試験運用の結果を踏まえて事業者を公募し、2019 年 7 月に事業者を選定、翌 8 月より本格営業を開始した。

【取組年表】

- | | |
|---------|---|
| 2017 年度 | 弟子屈町との相談・調整の他、川湯地域協議会との合意形成や住民説明会の開催。12 月には川湯 EMC 改修工事が着手 |
| 2018 年度 | 川湯 EMC の 2 階を改修し、2018 年 7 月末にカフェスペースを整備し、3 回の試験運用を実施 |
| 2019 年度 | カフェコーナー事業者を公募し、7 月に事業者を決定。8 月に本格営業を開始 |

III. 取組成果・ポイント

- 国立公園の環境省直轄ビジターセンターとしては、民間事業者を公募してカフェを運営するのは初めての事例。
- 地元の素材を使った商品開発、プラスチックを使わない商品提供など、国立公園の施設にふさわしい施設としてクオリティにこだわった運営。
- 飲食の提供だけでなく、地域の自然情報や観光情報を提供するコンシェルジュカフェがコンセプト。
- 観光客だけでなく、地域住民、地元ガイドなどにも積極的に活用してもらうことで、観光客と地域の交流の場とする。
- ツアーデスクの設置も予定しており、エコミュージアムセンターを自然情報提供施設だけでなく、観光地域交流の拠点施設として発展させていく。



2019 年 8 月以降の入館者数は、カフェコーナー開業後に、大きく増加していることが分かる。

IV. 今後の課題・改善点

- 民間事業者による継続的な運営および収益性の向上が課題。
- カフェ運営事業者主催によるイベント企画等を通じて、カフェの集客を増やすとともに、それと連携して国立公園に関する情報発信の機会を増やしていく。
- 同じ施設内に複数の運営主体が入ることで、両者の情報共有や連携体制の構築が課題。

夜のコンテンツ充実～カムイルミナ

- 阿寒湖周辺では、明治時代から続く地元の自然保護活動の積み重ねにより、原生的な自然が開発されず、そのまま維持されている。
- その阿寒摩周国立公園を舞台に、光や映像、音響、インタラクティブな仕掛けが散りばめられた夜の森を冒険する体験型観光コンテンツ、「阿寒湖の森ナイトウォーク KAMUY LUMINA（カムイルミナ）」が2019年7月に阿寒湖畔に誕生。
- 事業者が主体的に環境アセスメント及びモニタリングを実施した結果を受けて、事業の開始時期や内容の見直しなど順応的な管理体制を構築し、収益の一部は保護活動等に寄付されるため、持続可能な地域づくりにも貢献している。



© MOMENT FACTORY

森に投影されるフクロウとエゾシカ

「カムイルミナ」は、カナダのモントリオールに本拠地を構えるデジタルアート集団 Moment Factory 社が制作し、世界中の人々を魅了している「ルミナ・ナイトウォーク・シリーズ」の10作目となる作品。国立公園の夜の森を舞台に、北海道の先住民族であるアイヌの文化や神話をモチーフとしたもので、その根幹の考え方である「自然との共生」というメッセージを伝える。

【実施期間について】

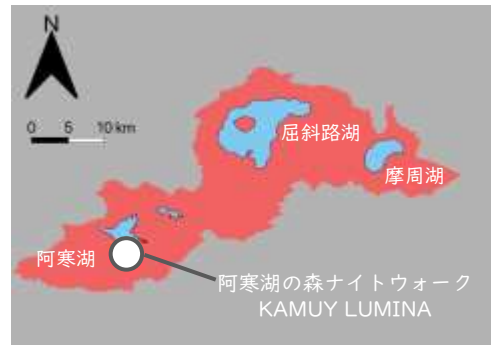
2021年は6月22日～11月14日まで実施



機材カモフラージュの様子（赤枠部分）

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒085-0467
北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉 1-5-20
- 実施主体：
阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社



II. 取組の経緯

- 阿寒観光協会まちづくり推進機構より、世界的に評価を得ているカナダのデジタルアート会社「MOMENT FACTORY」と連携した夜のイベントの実施を提案。
- ナイトタイムイベントを含むアドベンチャートラベルを推進する事業体として（誰が）「阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社」を設立。
- イベント終了後は原則として全ての工作物を撤去すること、イベント実施期間中も日中の歩道利用者から見えないように工夫すること、地域での合意形成を図ることなどを条件に、イベントとして認める方向で調整。
- 林野庁や前田一步園財団等との協議を重ね、「阿寒湖の森ナイトウォーク カムイルミナ」を開始。

【取組年表】

- | | |
|----------|--|
| 2017年02月 | 阿寒観光協会まちづくり推進機構より、阿寒湖畔のポケ遊歩道で行う夜のイベント実施について提案 |
| 2018年04月 | アドベンチャートラベルを推進する事業体として「阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社」を設立 |
| 2018年08月 | 地域への配慮等、合意形成を図ることなどを条件に、地域活性化のためのイベントとして認める方向で調整 |
| 2019年07月 | 阿寒湖の森ナイトウォーク KAMUY LUMINA（カムイルミナ）を開始 |

III. 取組成果・ポイント

- 同シリーズとしては世界で初めて国立公園内で開催されるもので、林野庁、前田一步園財団（阿寒湖周辺の森林約 3,600 ヘクタールを所有し管理する団体）とも協力し、国立公園の自然環境に配慮したプログラム作りを進めた。
- 事業者が主体的に環境アセスメント及びモニタリングを実施し、モニタリングの結果を受けて事業の開始時期や内容を見直すなどの順応的な管理の体制を構築。
- 一部の機材については毎日設置撤去するなどの対策を実施し、日中の利用者への支障がないように配慮している。
- 同事業の収益の一部は、自然環境保護活動、アイヌ文化振興に寄付され、この森と湖の保全とアイヌ文化の発展に活用されることとなり、持続可能な地域づくりにも貢献している。



カムイルミナ内のアセス調査風景



アセス調査用のセンサーカメラ

IV. 今後の課題・改善点

- ポケ遊歩道は天然記念物および絶滅危惧種であるクマガエラの生息地であるため、繁殖の兆候が見られた場合はイベントの開催時期を延期する等の対策が必要。またイベントの継続による影響に関しては現時点では明らかではないが、影響が見られた場合の対策も併せて必要となる。
- 毎日のカモフラージュ対応、モニタリング等のコストを事業の収益から継続的にまかなえるような経済的にも持続可能な仕組みの構築。

冬季コンテンツ造成とイベントの連動による宿泊促進

- ・十和田湖畔の観光入込客数は、冬季に大幅に落ち込むため、毎年2月にロングランイベント「十和田湖冬物語」を開催し、冬季の観光振興を図ってきた。
- ・2017年以降は、加えて隣接エリアである奥入瀬渓流において「奥入瀬渓流水瀑ツアー」を実施し、多くの参加者を集めている。
- ・地元・十和田市を始めとして、(一社)十和田奥入瀬観光機構を中心に、宿泊、交通、飲食、ガイド団体等の観光事業者が連携し、エリア一体での冬の魅力向上に努めてきた結果、インバウンドを含めて1-3月のエリア内宿泊者数が着実に増加している。
- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、ウィズコロナ、アフターコロナ時代のツアーとイベントを企画実施した。

GOOD DESIGN 主催 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構
十和田市冬季観光充実・強化事業

予約制 (乗車日の4日前まで)
最少催行人数1名
※催行が確定しているツアーに関しては
空席があれば当日でも申込可能です。

2021-2022

奥入瀬渓流

OIRASE GORGE FROZEN BUS TOUR

氷瀑ツアー

「密集」「密閉」「密接」を避け、安心したバスツアーです。

実施期間
2021年12月17日(金) ~
2022年3月6日(日)

おとな 3,000円
子ども(小学生) 1,500円
※小学生未満は無料
※身体障害者は半額となります。

奥入瀬渓流水瀑ツアー・チラシ



事前予約制で実施した花火ショー



幻想的な吹雪の中での篠笛演奏

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
青森県十和田市 奥入瀬溪流/
十和田湖畔
- 実施主体：
十和田市、(一社)十和田奥入瀬
観光機構、その他市内宿泊、
交通、飲食、ガイド団体等事
業者が連携して取組を実施



II. 取組の経緯

- 十和田湖畔では、冬場の集客対策として2020年まで毎年2月にロングランイベント「十和田湖冬物語」を開催してきた。
- 加えて、2017年からは隣接エリアである奥入瀬溪流において、地域資源を活用した「奥入瀬溪流水瀑ツアー」を実施し、イベントとの相乗効果を生んでいる。
- また20年度には、十和田湖冬物語をリニューアルし、十和田湖畔の集団施設地区内でイルミネーションイベントを開催。高村光太郎の乙女の像、幽玄な佇まいを見せる十和田神社周辺の冬景色と静寂の魅力を体感できる特色あるイルミネーションを通じて、新しい地域資源を演出した。

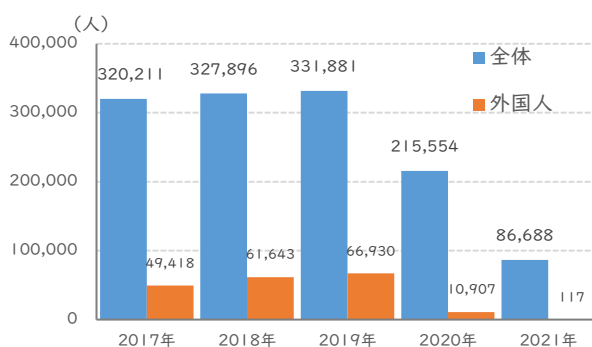
取組エリア

(出典：十和田市観光パンフレット「とわだ旅」より)

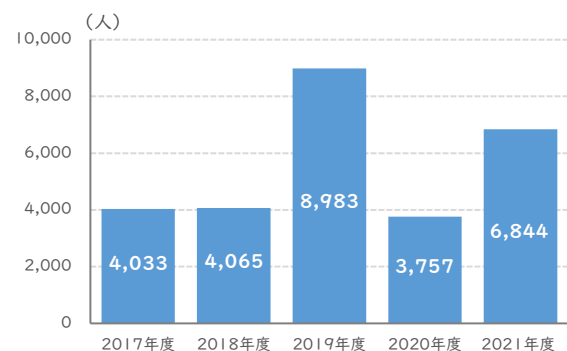


III. 取組成果・ポイント

- 奥入瀬溪流水瀑ツアーは、初年度となる2017年度に、昼と夜（ライトアップ）の2ツアーでスタート。夜のライトアップツアーは、投光器具を常設できない国立公園特別保護地区においても、移動式とすることで、これまで利用がほとんどなかった冬の夜の奥入瀬溪流をクローズアップするコンテンツとなった。
- 地元自治体、民間事業者、環境省、その他関係団体が連携して取り組むことで、冬季の同時期に複数のイベント開催と、地域資源を活用したツアー催行が可能となり、エリア一体における滞在魅力の創造に繋がっている。
- 首都圏および青森県内からのツアー参加者が多く、2021年度は首都圏へ向けたメディア発信などのPR活動を行った。



エリア内宿泊者数の推移



奥入瀬溪流水瀑ツアーの実績人数の推移

IV. 今後の課題・改善点

- ファン・リピーターの獲得が重要であると捉え、スノーアクティビティなどの体験を造成し、冬の日を湖畔で過ごすマイクロツーリズムの定着を図っていく。またインバウンドの回復期に向けて、冬季コンテンツを充実させていく。

休屋における廃屋撤去・景観改善

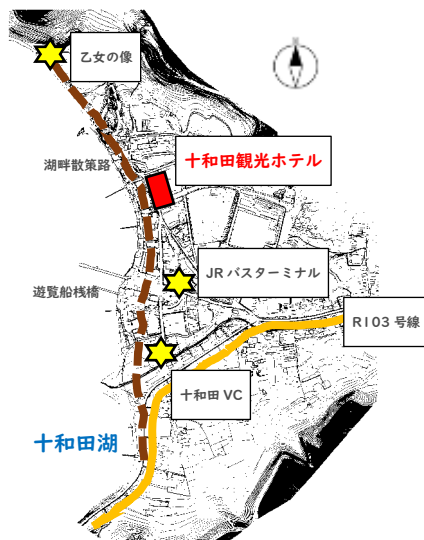
- ・ 休屋集団施設地区では、宿泊施設、物産販売施設といった民間施設に老朽化しているものが多く、一部は閉鎖されていたり、管理者が不在となり廃屋となっているものがある。
- ・ なかでも 2014 年に破産手続きを受けた(株)十和田観光ホテルの既存建物は、主要道から湖畔側に位置し、景観を損なっていることが課題となっていた。
- ・ そこで、建物収去土地明渡請求+強制執行の申立てを行い、2021年11月に建物撤去が完了した。今後、民間事業者の公募などにより、跡地の活用を図っていく予定となっている。



十和田観光ホテルの全景（廃屋撤去前）



十和田観光ホテルの位置



湖畔方向の景観（廃屋撤去前）

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒018-5501
青森県十和田市奥瀬十和田湖
畔休屋
- 実施主体：環境省



II. 取組の経緯

- 残置された建物が廃屋化。休屋地区の中心かつ主要道路から湖畔側に位置するため、景観を損なう大きな原因となる。
- 当建物は環境省所管地内にあり、今後所有者により撤去される見込みが無い場合、建物収去・土地明渡請求+強制執行の申立てにより、環境省が建物の撤去を進める方針に。
- 2018年12月から建物収去・土地明渡等請求の訴訟を申立て、翌年4月に判決。それを受け、建物収去命令及び強制執行を裁判所に申立て、2020年10月に強制執行開始。当初予定した工期を延長し、2021年11月に訴訟提起から3年にわたる撤去事業が完了した。

【取組年表】

1962年03月	宿泊事業の当初認可を受ける。(事業者：(株)十和田観光ホテル)
2012年04月	土地使用許可を更新せず、国有地(環境省所管地)を不法占拠する形となる。
2014年05月	(株)十和田観光ホテルの破産手続き開始
2015年04月	(株)十和田観光ホテルとしての法人閉鎖
2018年12月	「建物収去・土地明渡等請求」申立
2019年04月	「判決確定」
2020年02月	「建物収去命令」の申立
2020年06月	「授権決定」
2020年08月	「強制執行」申立
2020年10月	「強制執行(建物撤去)」開始
2021年11月	「強制執行(建物撤去)」完了

III. 取組成果・ポイント

- 湖面に向けた開放的なオープンスペースを確保する。
- 溪畔林の木陰や湖畔の静寂さを楽しむ商業施設の誘致を検討。
- 周辺の廃屋施設の撤去の動向も見据え、地区全体の利活用方針について地域関係者と協議中。



湖畔方向の景観(廃屋撤去後)



地域との跡地検討の様子

IV. 今後の課題・改善点

- 地域関係者との議論や跡地の暫定利用などを通じて、公募要件をより詳細に検討する。
- 公募にあたっては、十和田湖畔の景観を最大限活かし、周辺環境のみならず SDGs 等に配慮し、地域コミュニティへの波及効果を創造する事業者を選定するよう努める。

鳶沼でのキャパシティコントロールによるオーバーツーリズム対策

- ・ 鳶温泉に隣接した鳶野鳥の森には、6つの沼を巡る1周 2.8kmの「沼めぐりの小道」が整備されている。
- ・ 本エリアの鳶沼では、広告への掲載やテレビ番組への露出をきっかけに主に紅葉期における写真愛好家が急増し、混雑や路上駐車による渋滞が課題となっていた。
- ・ そこで、青森県、十和田市、十和田奥入瀬観光機構、環境省、鳶温泉、その他関係機関による交通渋滞対策協議会が主体となり、混雑期における各種混雑対策を実施し、混雑緩和を図った。利用者アンケートにおいても、好評を得た。この取組は利用者からの協力金により実施している。



デッキ上の様子（対策期間内）
対策の結果、デッキ上では利用者数が抑制、歩道外への立ち入りも発生せず。



周辺道路（対策期間内）
事前予約制の周知により、路上駐車がゼロに。



駐車場（対策期間内）
駐車場利用が整理され、円滑な交通に寄与。

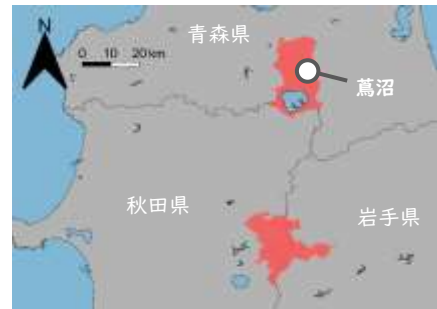
出典：令和2年度鳶沼早朝ツアー創出及び渋滞対策検討業務報告書

I. 取組地域・関係機関

URL（十和田市、展望デッキの入場事前予約制の導入について）：
<https://www.city.towada.lg.jp/kanko/guide/tutanuma.html>

- 所在地：
〒034-0301
青森県十和田市奥瀬

- 実施主体：
十和田湖周辺交通渋滞対策協議会（十和田市（事務局）、青森県、十和田奥入瀬観光機構、環境省、蕨温泉等）



II. 取組の経緯

- 蕨温泉は、2018年のテレビ番組への露出をきっかけとし、紅葉期に写真愛好家を中心に特に人気が高まっていた。
- 特に早朝の日の出時間帯におけるデッキ上での混雑と、それに伴う歩道外への立入り、路上駐車が発生が課題となっていた。また、昼間においても駐車場がない大型バスの滞留が課題であった。
- そうした課題への対応と新型コロナウイルス対応も兼ねて、2020年より渋滞対策協議会が主体となり、キャパシティコントロール、路上駐車対策等を実施した2021年は10月14日～11月7日（うち早朝対策は10月16日～31日）に実施した。

【昨年度までの様子・課題】



①デッキ上の混雑
早朝時間帯において入場者が押し寄せ、デッキ上が混雑。後列の利用者は風景を見ることができず、満足度が低下。



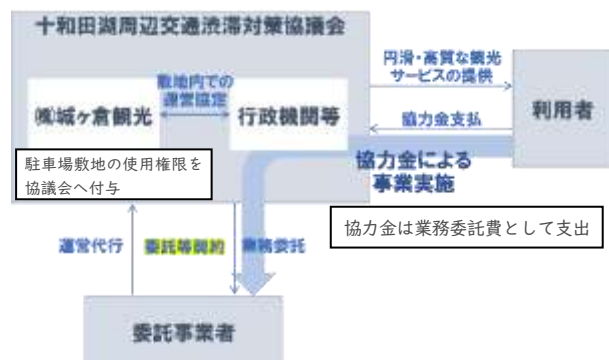
②路上駐車が発生
蕨温泉（私有地）の駐車場がオーバーフローし、路上駐車が発生。重要な幹線国道である103号線において円滑な通行に支障。



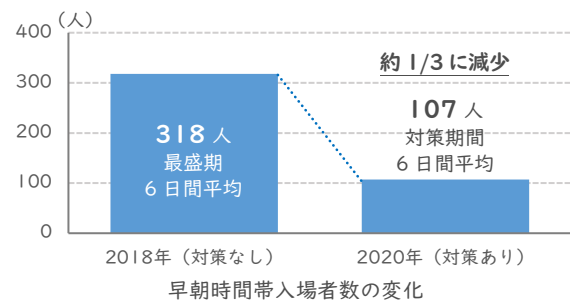
③湿地植生への影響
デッキ上からあふれた利用者が沼周辺の歩道外へ立ち入る事象が発生。脆弱な湿地植生が破壊される懸念。

III. 取組成果・ポイント

- 日の出待ちの滞留が発生する早朝を完全事前予約制（抽選）とすることにより、入場者数のコントロールを実施。協力金も4,000円/台（2名以上乗車の場合、1人あたり+2,000円）に設定し、プライシングによる抑制も図ったことで、利用者数をコントロールし、歩道外への立入りも発生しなかった。
- また、早朝のみならず昼間時間帯においても駐車場の利用をコントロールするため、1,000円/台（10月16日～31日、11月3日は2,000円/台）の協力金を徴収し、駐車場整理を実施した結果、入場者数がコントロールされ、適切な利用環境の確保や円滑な交通に寄与した。
- 加えて、路上駐車を未然に防ぐため、国道上にカラーコーンを設置し、路上看板においても早朝事前予約制の導入等を告知したところ、期間内の路上駐車がゼロとなった。
- 利用者からのアンケートにおいても、「いつも混雑していたが、ゆっくり見ることができてよかった」、「自然を壊さないためにもこのような取組は必要」など好意的な意見を多く得ることができた。



2021年度における事業スキーム



IV. 今後の課題・改善点

- 過年度に得られた結果及び協力金の収入を活用し、引き続き渋滞対策協議会を中心としつつ、自立かつ継続的な取組に移行することを目指していく。

十和田信仰ガイドツアーの開発

- 休屋集団施設地区は毎年 120 万人超の利用者がいるものの、自然環境を活かしたアクティビティが十分に提供されてこなかった。
- そこで同エリアに隣接する、かつて信仰のため修験者が歩いたルートである自籠岩（じごもりいわ）歩道に着目し、安全性を確保したアクティビティとしてガイドツアーを開発、期間限定での社会実験を実施した。
- その結果、アクティビティプログラムと利用ニーズのマッチング、有償利用の実行可能性について確認でき、今後の新たな利用ニーズへの対応や滞在時間の長期化に繋がることが期待される結果となった。



チロリアントラバースで空中滑空



ヴィアフェラータで岩登り



インタープリテーションの様子

出典：十和田湖自籠岩・空中散歩(ヴィアフェラータ)ツアー
<http://tohoku.env.go.jp/自籠岩ツアー案内%20.pdf>

I. 取組地域・関係機関

URL (十和田奥入瀬観光機構、ガイドツアーの紹介):
<https://www.towada.travel/ja/all-feature-articles/towadako-zigomoriwa>

- 所在地:
〒018-5501
青森県十和田市奥瀬十和田湖畔
休屋自籠岩歩道
- 主催:
(有) パシフィックネットワーク
- 協力: 環境省

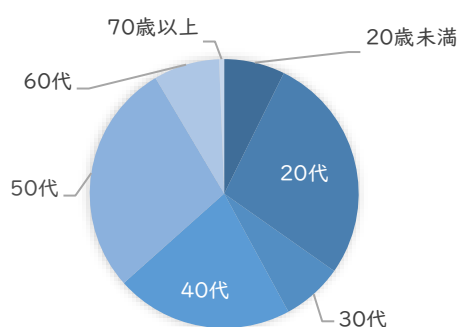


II. 取組の経緯

- 十和田湖畔にある自籠岩は、霊山十和田信仰において、十和田山開祖の南祖坊が修行を行った場と伝わる、十和田八幡平国立公園特別保護地区内に位置する岩である。土地所有者は林野庁（国有林）であり、公園計画の改訂および直轄事業執行にあたり、土地の使用に関する協議を行っており、現在は環境省が管理する歩道となっている。
- 当地には江戸時代以降に据え付けられたと思われるハシゴが残置しているのみで、老朽化が進み、安全に到達することが難しくなっていた。
- そこで十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム 2020 において、乙女の像から十和田信仰の重要な位置を占める自籠岩へと繋がる自籠岩歩道の活用を模索するための期間限定の実証実験として、不整地の遊歩道を歩くハイキングと岩場に登るクライミングが融合したツアーを催行した。

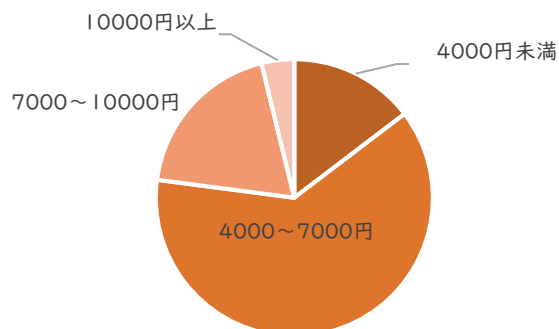
III. 取組成果・ポイント

- 歩道の維持管理を無償管理委託により支弁するもので、必要な維持管理費が縮減されて自律的な取組となること、また有人でのガイドとなることで盗掘等の恐れが軽減され、外来種対策等も積極的に行える。
- 植生への影響低減のため、チロリアントラバースを採用することにより歩道外への立入りを未然に防止し、植生を保護。樹木にも専用の保護具を用いた。岩への登攀ではヴィアフェラータを用い、落下事故の重大化を防止。ハシゴ等の仮設による安全補助も行うことで、登攀時の安全確保を確かなものとした。
- インタープリテーションにおいても、特別保護地区である歩道周辺の植生を含む生態系の解説や十和田信仰の解説を実施することで、地域へのリスペクトを培うことに留意した。
- 利用者からは、「今まで何度か十和田湖に来ていたが、全く知らない景色、体験ができて嬉しかった」、「上でお茶したいくらい気持ちよい場所で、とっても達成感があった」など、好意的な意見を多く得ることができた。



【参加者の年齢層】

運動強度が必要なツアーであり、参加者の6割以上が40代以下。若い利用者のニーズとマッチする可能性あり。



【ツアー実装時の販売希望価格】

半日程度のツアーとなった場合、4000円~7000円程度のツアーとして設定可能。7000円以上の高単価でも客層は掴める。

IV. 今後の課題・改善点

- 今回の結果を活かし、特に安全面及び特別保護地区であることへの配慮、インタープリテーションの充実を前提に持続可能な管理運営体制の構築に向け、2022年度に無償管理委託者の公募を実施する予定である。

ビジターセンターとの連携による観光案内機能の強化

- ・ハード面の整備や案内機能の強化など、受入体制の整備が課題であったことから、「上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園」に資する取組をおこなった。
- ・外国人観光客の受入体制の整備に関しては、中禅寺湖畔や東武日光駅に英語対応可能なスタッフを配置したほか、ビジターセンタースタッフ間での情報交換会やコンシェルジュ研修を実施。
- ・他の案内所やビジターセンターとの情報共有がおこなわれ、連携強化や体制強化につながるものとなった。



中禅寺湖南岸トレック&パックラフトツアー

ビジターセンターや案内所スタッフが地域のアクティビティを無料体験できる機会を創出した。さらに東武日光駅などには、英語対応可能な「日光コンシェルジュ」を配置し、観光案内機能の強化に努めた。



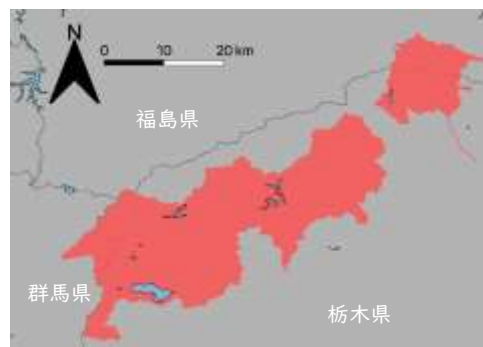
ネイチャーウォーク大沼公園



東武日光駅 各案内所見学

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：日光国立公園全域及び周辺地域
- 実施主体：環境省・栃木県



II. 取組の経緯

- 公園全体の取組方針としてハード面の整備や案内機能の強化などの受け入れ態勢の整備が挙げられた。
- 案内機能の強化、特に外国人観光客の受入体制整備については、奥日光インフォメーションセンター（JNTO カテゴリーⅡ）の解説、東武日光駅に英語対応可能な「日光コンシェルジュ」を配置、JR 日光駅のインフォメーションセンターによる奥日光や那須など広範囲なエリアの情報発信を強化するなどの取組をおこなった。
- 2020年には、東武、JR 日光駅、中禅寺湖などの案内所、ビジターセンタースタッフ間での情報交換会、コンシェルジュ研修を実施。

【関連する実施業務】

- 令和元年度日光湯元ビジターセンター等案内機能強化業務
日光湯元ビジターセンターおよび日光周辺の観光案内所を対象としたコンシェルジュ研修及び日光地域の他の案内所との連携強化のための情報交換会等を実施
- 令和2年度日光国立公園における案内所等スタッフのアクティビティ体験業務
接客担当の観光案内所やビジターセンター職員がアクティビティを体験し、自身の体験を接客等に活用
- 令和2年度日光湯元ビジターセンター等案内機能強化業務
各観光案内所やビジターセンター間での情報共有や交流自体があまりなく、訪問者への案内はそれぞれの場所に委ねられている現状を把握

III. 取組成果・ポイント

- アクティビティ体験業務の成果として、接客担当が体験し、それを誘客に活かすだけでなく、職場内での共有やSNS等での発信など、さらなる展開にもつながった。
- 案内機能強化業務の成果として、他地域での取組を知る研修、他の案内所等の見学と意見交換などから、他の案内所やVCでの業務について理解することができ、また自身の案内業務に活かす方策も検討できた。
- 中禅寺湖畔に新設された奥日光インフォメーションセンターにおける外国人利用者の数は、年間 8,500 人程度であり、全般的な利便性の向上につながった。
- 民間含め、様々な取組が展開されたことにより、利用者増、連携強化、体制強化が実現された。



アクティビティ体験 (SUP)



研修の様子

IV. 今後の課題・改善点

- 各案内所間での情報共有や交流などの更なる連携機能の強化が必要。
- 公園内での楽しみ方を利用者にわかりやすく伝えるため、ビジターセンター等のスタッフ自身がアクティビティを体験するなど、コンシェルジュとしての案内機能のさらなる強化が必要。

通景伐採による景観改善

- ・公園内では展望地における眺望確保のため、自然環境や景観に影響を与えない範囲での枝落としや修景伐採の検討など、良質な景観の保全が課題であったことから、公園全体での共通の取組として検討を開始した。
- ・取組の強化にあたって、施設整備・磨き上げ分科会を設置し、円滑な修景伐採のためのルールづくり等について検討し、伐採が継続的なものとなるモデル的な取組が行われた。
- ・2019年度は6箇所の通景伐採を実施し、いずれの箇所でも眺望の回復が認められた。2020年度以降も継続中。



2019年度の修景伐採位置図（環境省 日光国立公園地図を一部改変）

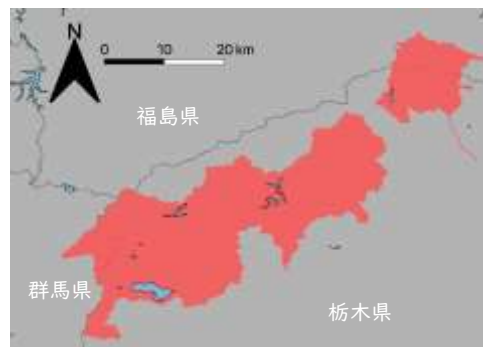


修景伐採の事例（那須町湯本 駒止の滝観瀑台） 左：伐採前、右：伐採後

拠点内の面的景観や山や湖への眺望景観の改善のための通景伐採といった引き算景観改善を実施。那須町湯本にある駒止の滝観瀑台では滝を見た際に、生長した樹木が滝壺への視界を遮っていることから、これを伐採して見通しを確保した。

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
日光国立公園全域（日光エリア、鬼怒川エリア、那須エリア、塩原エリア）
- 実施主体：環境省、林野庁、栃木県、市町
- 取組協力：
日光国立公園満喫プロジェクト地域協議会施設整備・磨き上げ分科会



II. 取組の経緯

- 「日光国立公園ステップアッププログラム 2020」に基づき、自然公園等の施設管理者が主体となって、良質な自然景観の眺望を確保するために、修景伐採の取組を強化した。
- 取組の強化にあたっては、施設整備・磨き上げ分科会を設置し、円滑な修景伐採のためのルールづくり等（法令手続の整理、仕様書様式の作成）について検討し、本格的な伐採を開始した。
- 県北地域（那須エリア、塩原エリア）においては、行政機関の実務者を構成員とするワーキンググループを設置し、現場レベルでの踏み込んだ検討が進められ、伐採が継続的なものとなるモデル的な取組が行われた。

III. 取組成果・ポイント

- 2019年度は全部で7箇所の通景伐採を実施し、いずれの箇所でも眺望の回復が認められた。管理者と土地所有者が異なる施設もあるが、ワーキンググループとして連携することにより可能となった。

	イタリア大使館別荘記念公園	ヨシ沼園地	小丸山線歩道展望台
伐採前			
伐採後			

IV. 今後の課題・改善点

- 引き続き関係機関が連携して取り組み、候補地の決定にあたっては地域関係者やガイド等の意見を参考にするなど地域の合意形成を図っていく。
- 眺望の確保だけでなく、園地としての樹木の配置・バランスも考慮したうえで選木。
- 観光客が多い施設については、伐採の時期や時間帯に配慮する必要がある。

ビジターセンター等における地元カフェ・店舗の出店

- ・ 那須平成の森フィールドセンターに、皇族が親しんだ那須の自然を感じながらゆったり休めるカフェスペースを併設し、ガイドウォークと森の中でのカフェを組み合わせたプログラムを開発した。
- ・ サービスレベルの向上や利用者の増加、滞在時間の延長に寄与している。
- ・ 売上の一部を那須平成の森基金に寄付することを通じて、那須平成の森の環境保全や価値の向上にも寄与している。



センター内に出店されたカフェ

センター内のカフェは、地元在住のクリエイターの協力を得て、全体のコンセプトデザインをもとに様々な仕組みを作った。その1例が組み立て式のカウンターである。臨時出店という事情もあったため、実際にカフェを営業するときだけ持ち出して設置できるようなカウンターを作成した。作成にあたっては住民参加を取り入れたいという理由から、住民参加のワークショップをおこなった。



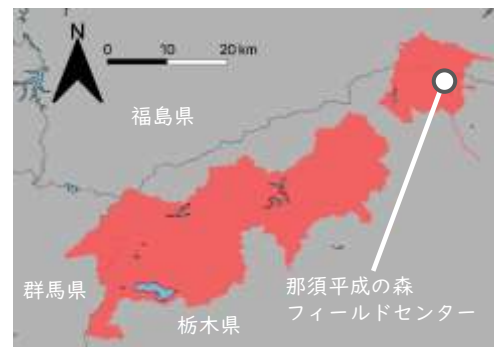
那須平成の森フィールドセンター



組み立て式のカウンター

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒325-0302
栃木県那須郡那須町高久丙3
254
- 実施主体：環境省
- 出店協力：地元民間事業者



II. 取組の経緯

- 那須平成の森フィールドセンター周辺には飲食店がなかった。
- 自然体験前後にくつろぎの時間を提供することで、利用満足度の向上や滞在時間延長等が期待されることから、カフェ導入施行に向けた検討をおこない、2017年6月から地元カフェの試験出店を開始。
- カフェセットは地元デザイナーが那須平成の森の品格に沿ってデザイン。
- 出店協力者は公募により地元業者を選定。公募情報は地元観光協会等を通じて周知。
- 2019年度は5～10月の開園日の6.5割程度の日数で出店し、利用者の1.5割程度が利用。

【取組年表】

2008年	御用邸用地の一部（560ha）が宮内庁から環境省へ移管
2011年05月	一般開放において自然環境のモニタリング調査や、フィールドセンター等の施設整備や遊歩道などの整備が進められたのち、開園
2017年06月	那須平成の森フィールドセンターにおいて、地元カフェの試験出店を開始
2017年10月	第2回目の試験出店
2018年06月～	グリーンシーズンに、月20日程度の継続的な出店を開始
2019年10月	森でのカフェ提供を含めた自然体験プログラムを試行
2021年02月	カフェ提供を含めたナイトタイムプログラムを試行

III. 取組成果・ポイント

- 自然体験+αによるサービスレベルの向上、利用者増、滞在時間延長に寄与。カフェ目当ての来客もある。
- 売り上げの一部を那須平成の森基金に寄付することを通じて、那須平成の森の環境保全、価値向上に寄与。
- 環境に配慮したプラスチックフリーの商品提供。
- 通常はフィールドセンター施設内でのサービス提供だが、森でのカフェ提供を含めた自然体験プログラムを試行。



森でのカフェ提供1



森でのカフェ提供2

IV. 今後の課題・改善点

- 現在はグリーンシーズンのみであるため、今後は通年のサービス提供が望まれており、飲料だけでなく菓子の提供もしているが、サンドイッチ等軽食販売のニーズへの対応が課題である。
- マイカップ割引などサステイナブルな利用形態の定着が望まれる。
- 自然体験プログラムに森でのカフェ提供を組み込んだ新規プログラムの定着を目指す。

奥日光におけるナイトタイムコンテンツの開発

- 日光国立公園の課題として、外国人旅行者は日帰りでの訪問者が多いため、多様なニーズに応じた宿泊施設の整備や宿泊者向けの夜間コンテンツ整備といった仕組みづくりの重要性が指摘されていた。
- ナイトタイムコンテンツの開発の 1 つとして、2020 年度には低公害バスに自然ガイドが同乗し、夜の奥日光を案内するモニターツアーを実施。
- モニターツアー後のアンケート結果では、参加者の約 9 割から高い評価を受け、ツアー内容に十分な魅力と可能性が認められた。



低公害バスに乗りし、目的地へ向かう

2020 年度に夜の奥日光で実施されたモニターツアーでは、地元のベテランガイドが低公害バスに同乗し、マイカー規制区間でのライトセンサスでシカ等の野生動物を観察したり、湖畔での星空観察を実施。シカ以外にキツネやアナグマなどを見ることができる。



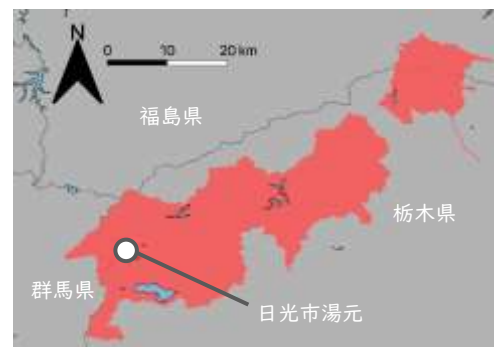
ライトセンサス体験



中禅寺湖畔の夜景

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒321-1662
栃木県日光市湯元
- 実施主体：環境省
- 業務請負：
一般財団法人自然公園財団日
光支部



II. 取組の経緯

- 日光国立公園の課題として、外国人観光客は日帰りでの訪問者が多く、宿泊・長期滞在にはつながっていないため、多様なニーズに応じた宿泊プラン・施設の整備、宿泊者向けの夜間や朝のコンテンツ整備など、宿泊・長期滞在につながる仕組みづくりの重要性が指摘されていた。
- 日光国立公園ならではの魅力ある自然、文化、歴史を楽しめるナイトタイムコンテンツを試験的に実施する事になった。
- 2020年度、2021年度に奥日光での夜のモニターツアーを実施。

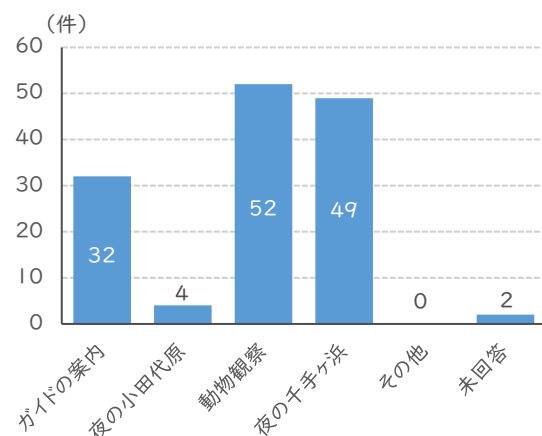


モニターツアーのポスター

III. 取組成果・ポイント

【2020年度ツアーについて】

- ツアー後に行った参加者へのアンケート結果では、「ツアーの感想」について、「十分楽しめた」75%、「ある程度楽しめた」21%と、参加した約9割の方々から高い評価をいただいた。
- また、アンケートでは「特に興味を持った点（複数回答可）」として、動物観察52件、夜の千手ヶ浜49件、ガイドの案内32件を上げた方が多く、ナイトタイムコンテンツ資源として、今回のテーマが十分な魅力と可能性を持つことを確認出来た。
- 試行したツアーは、奥日光地域の宿泊者向けだったが、観光事業に携わるの方々にも参加頂き、今後同様なツアーがあれば参加したい、業務として提携できる事があれば協力したい、と多くの声を頂き、実際にツアー化に向けた問い合わせも当方に寄せられている。



特に興味を持った点に関するアンケート結果
(アンケート回収数：84票、複数回答)

IV. 今後の課題・改善点

- 2020年度は春～秋に低公害バスが定期的に運行している区間で行ったが、日光国立公園には自然、歴史、文化などが楽しめるナイトタイムコンテンツ資源が多くあると思われるため、今後の掘り起こしが重要となる。

横山天空カフェテラスの開設

- 横山展望台からは、多数の島々やリアス海岸である英虞湾の自然景観と、真珠等の養殖筏に象徴される文化景観が合わさって作り出される、自然と人々の営みが調和した里海の美しい風景が展望できる。
- 展望台をよりゆっくりと楽しんでもらえるよう「横山天空カフェテラス」として展望テラスと展望休憩所を整備。展望休憩所内にはカフェコーナーを併設し、民間事業者と協定を締結してカフェの運営を行っている。
- その結果、国内外からの横山展望台への訪問者が増加し、近接の横山ビジターセンターの利用者も増えている。



カフェのある展望休憩所

カフェコーナー（ミラドル志摩）では、季節のドリンクやフードをテイクアウトスタイルで提供。展望テラスからはもちろん、展望休憩所の1階と2階にある無料休憩スペースから、美しい伊勢志摩の風景を眺めながらのティータイムを楽しむことができる。地場の“あおさ豚”や“カツオ”を食材に使っている他、地元の高校の調理クラブが考案したメニューを提供するなどの工夫を行っている。



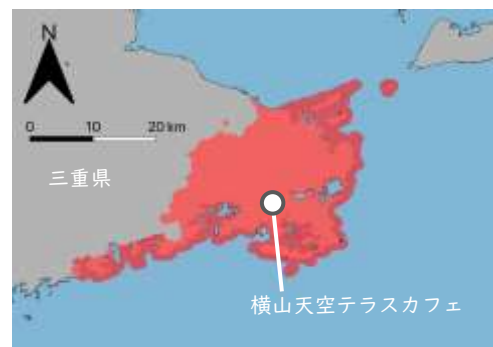
横山天空カフェテラスと英虞湾の景観



テイクアウト形式のカフェ

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒517-0501
三重県志摩市阿児町鶴方
875-20
- 管理主体：
環境省 中部地方環境事務所
- カフェ運営主体：
株式会社志摩地中海村



II. 取組の経緯

- 「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム 2020」の取組の一環として、横山園地を英虞湾の景観をゆっくり楽しむことのできる質の高い展望空間として再整備することを決定。
- 「横山天空カフェテラス」「木もれ日テラス」「そよ風テラス」及び遊歩道などを整備。
- 併せて、展望休憩所内にテイクアウト方式のカフェコーナーを設置することとし、公募を経て、運営事業者を決定。
- 横山展望台リニューアルオープンと同時にカフェの運営を開始。
- 横山天空カフェテラスを活用したイベントや訪日外国人誘客の取組を開始。

【取組年表】

- | | |
|-----------|---|
| 2017年09月 | 工事開始 |
| 2018年03月 | テラス部分の供用開始 |
| 2018年08月 | 横山天空カフェテラス・オープン |
| 2019年08月～ | 鳥羽港に寄港する大型旅客船の外国人乗船客を横山園地に誘客し、自然観察や真珠を使ったアクセサリー作りの体験イベントを催行 |
| 2019年11月 | ナイトタイム活用推進のため「横山トワイライトカフェ」イベントを実施。カフェの営業時間延長、竹あかり、天空ヨガ、ジャズ演奏、星空観察などの催しを実施 |
| 2020年 | ナイトタイム活用推進のため、横山デジタルセンターで運営する有料プログラム造成のための各種モニターツアー（早朝ヨガ、星空観察会など）を実施 |

III. 取組成果・ポイント

- 海側に張り出すように設計された展望テラスでは、天空にいるかのような開放感、高度感を味わうことができる。
- テラスの床には、三重県産のヒノキを使用。カフェでは、あおさコーンなど地場の素材に拘ったメニューが提供され、伊勢志摩の里山里海との繋がりを味わうことができる。
- 環境配慮の対応として、植物由来のストローやバイオマスプラスチック製のカップの使用、カップ類の蓋やプラスチック製レジ袋の不使用、その他ゴミの少量化に努めている。
- 運営事業者からカフェの売り上げの一部の寄付を受け、展望台周りの修景伐採など園地の維持管理に活用している。
- 運営を地元民間企業に委ねることで、企業自身のプロモーション活動が横山園地への誘客につながっている。
- 横山園地の利用人数はリニューアル後に雑誌などで頻繁に取り上げられるようになり、人気を保っている。トリップアドバイザー「旅好きが選ぶ！日本人に人気の日本の展望台ランキング 2020」で全国8位となった。
- 海側に張り出すテラスを活用した天空ヨガや星空観察など、施設を活用した新たなイベント・プログラムの造成が進んでいる。



利用者で賑わうカフェ



横山天空カフェテラスを活用した天空ヨガ

IV. 今後の課題・改善点

- 横山園地を活用した質の高い有料体験プログラムの実施体制の構築を検討中。また、早朝や夕方などのナイトタイムの活用についても検討を進めている。

大山寺参道における景観改善とエリア活性化

- 大山寺地区におけるまちなみ景観の改善のため、廃屋が撤去され、その跡地にカフェや地域特産品を扱う商業施設が整備された。
- 空き店舗が改修され、ツアーデスクやカフェ、ゲストハウス等が入居し、利用拠点施設となった。
- さらに 2019 年度に策定された「大山寺地区上質化推進基本計画」や翌 2020 年度に策定された「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025」に基づき老朽化施設の撤去・改修、撤去跡地への新たな施設の整備などが継続的に行われ、まちなみの改善とともに利便性の向上等が図られている。



廃屋撤去跡地に整備された商業施設

大山寺参道の景観改善及び活性化のため、大山町が内閣府交付金を活用して、廃屋を撤去し、その跡地にカフェや地域特産品の販売を行う商業施設（大山参道市場）を整備した。2018年5月のオープン以降、利用者の滞留拠点となっている。



廃屋となっていた元宿泊施設



※参道市場とは異なる場所での取組事例

空き店舗改修後に移転してきたツアーデスク

I. 取組地域・関係機関

URL (一般社団法人 大山観光局 HP) :
<https://tourismdaisen.com/>

- 所在地：
〒689-3318
鳥取県西伯郡大山町大山
- 実施主体：
環境省、鳥取県、大山町、民間事業者



II. 取組の経緯

- 「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」の取組において、取組の1つとして大山寺地区における「まちなみ等の景観改善」が掲げられた。
- 「がっかりポイント」となる廃屋の撤去とその跡地への商業施設の整備、空き店舗の利用施設への再整備、眺望景観改善のための電線の再配置などを実施。
- 2019年度に策定された「大山寺地区上質化推進基本計画」や翌2020年度に策定された「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025」に基づき、老朽化施設の撤去・改修、撤去跡地への新たな施設の整備などを継続的に実施。

【取組年表】

2016年度	「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2020」を策定
2017年度	空き店舗を改修し、ツアーデスクやカフェが入居（その後2020年までに別フロアの改修を行いゲストハウスとして活用）
2018年度	2017年に撤去された元宿泊施設の跡地に整備された商業施設（大山参道市場）がオープン。このほか廃屋となっていた町営施設を大山町が撤去
2019年度	「大山寺地区上質化推進基本計画」を策定
2020年度	「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025」を策定。両計画に基づく老朽化施設の撤去・改修等を継続的に実施

III. 取組成果・ポイント

- 廃屋を撤去しその跡地にカフェや地域特産品の販売を行う商業施設を整備したことや、空き店舗を改修して各階にツアーデスクやカフェ、ゲストハウスを整備したこと等により、大山寺参道のまちなみ景観の改善に資するとともに、訪問者の滞在時間の延長など地域活性化に貢献している。
- こうした取組が契機となり、2019年度から国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業を活用し、大山寺地区上質化推進基本計画の策定（2019年度）や、同計画に基づいた取組として、まちなみ景観の改善、空き店舗の活用（新規店舗のオープン）、多言語標識の整備等が進んでいる。



焼きたてパンや珈琲を提供



大山の特産品を販売

IV. 今後の課題・改善点

- 景観上支障のある廃屋や老朽化施設のうち、特に民間所有の施設については、撤去や改修にあたって必要となる資金の不足や、所有者の高齢化等が課題である。
- 1,000年以上の歴史を有する門前町であり、国指定史跡でもあることを踏まえた、大山寺らしい風情を残すことに留意したまちなみ改善を引き続き進める必要がある。

オオサンショウウオ保全ツアーの開発

- 大山隠岐国立公園には、世界最大の両生類であり、“生きた化石”と呼ばれるオオサンショウウオが生息している。
- 観察・保全体験では、はじめに専門家からのレクチャーにより生態や地域の保護活動について学んだ後、実際に探しながら日野川源流や里山を歩き、生態調査や保全活動を体験する。
- ツアーの実施は保全活動等の機運を高めることにつながっており、日南町ではエコツーリズム全体構想やオオサンショウウオ保護管理指針の策定に取り組んでいる。



世界最大の両生類、オオサンショウウオ

オオサンショウウオは 1952 年に国の特別天然記念物に指定され、数百万年の間、生物学的にほとんど進化していないことから「生きた化石」と呼ばれている。人間活動による生息地の減少や環境悪化のため、絶滅の危機が増大しているが、日南町を流れる日野川はオオサンショウウオの重要な生息地の一つで、2018 年より環境省や日南町役場、研究者、地域住民らが協力し、生息環境の保全と活用に取り組んでいる。



ツアーの様子



測定器に入れて各個体の全長を調査

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒689-5292
鳥取県日野郡日南町
- 実施主体：
環境省、日南町、地域住民、
研究者



II. 取組の経緯

- 2017年度よりエコツーリズム人材育成事業により地域における中核人材の育成を開始。
- 日野川源流域におけるオオサンショウウオ・モニタリングツアーの構築に向けて地域関係者との検討を進め、2018年4月より一般提供を開始。
- アメリカのエミー賞を受賞し、世界トップクラスのフォロワーを持つコヨーテ・ピーターソン氏と番組クルーがオオサンショウウオ保全体験ツアーに参加し、2018年1月に動画をYoutubeで公開。650万PV以上を達成（2021年2月27日時点）
- 日南町でエコツーリズムを推進するため、「にちなんエコツーリズム推進協議会」を設立。

【取組年表】

2017年度	エコツーリズム人材育成事業の開始
2018年04月	オオサンショウウオ保全ツアーの一般提供開始
2018年05月	米英のライターを招いたモニターツアーを実施
2019年03月	「にちなんエコツーリズム推進協議会」を設立
2020年度	オオサンショウウオの保護管理指針を策定するための検討会を組織

III. 取組成果・ポイント

- オオサンショウウオは日南町内ではよく見られ、町民にとって珍しい存在ではない。本ツアーは、①世界最大の両生類であり、国指定特別天然記念物であるというオオサンショウウオの希少性や自然・観光資源としての価値を町民に認識してもらうきっかけとなること、②保全活動等の機運を高めること、を目的として始められたものである。
- 本ツアーは、日本屈指のオオサンショウウオ研究者が同行するため、専門性が高いと同時に、類似のツアーの追従を許さない独自性の高いものとなっており、ユーザー満足度が高い。また、上記目的に沿ったツアー構成となっており、「持続可能な観光」に該当するものとなっている。
- ツアー料金の一部が、オオサンショウウオ及びその生息地の保全活動を行う団体への支援金として提供されている。
- 上記目的に合致する形で、日南町ではエコツーリズム全体構想や、オオサンショウウオ保護管理指針の策定に取り組んでいるところ。

オオサンショウウオの保護活動体験の内容

【体験スケジュール】

午後3時	集合、説明の後、防水ズボンに着替え
午後3時半	川に入りオオサンショウウオを探す
午後4時半	教室へ移動、研究者によるオオサンショウウオ講座と質疑応答。
午後6時	地元の食材を使った健康志向の夕食
午後6時45分	体験場所へ移動、防水ズボンに着替え、道具を持って川へ
午後7時	オオサンショウウオの計測、記録など研究者の調査補助を行う
午後9時	体験終了

※実施期間は4月～11月（8月中旬と9月中旬を除く）。

URL：<https://www.bushidojapan.com/salamander>

IV. 今後の課題・改善点

- エコツーリズム全体構想とオオサンショウウオ保護管理指針が策定され、これらを踏まえた取組が進められることで、地元の人の暮らしの向上とオオサンショウウオの保護の両立が図られることが重要である。

三瓶山麓でのグランピング開発

- 三瓶山地域はファミリー層の利用が多く、また女性グループで訪れる方もいることから、これらの層をターゲットとしたワンランク上のサービスを提供可能とする環境整備や受入れ体制の検討が行われた。
- 周辺地域の自然・文化・食を満喫するため、期間限定のグランピングを試行的に実施し、快適なテントに地元食材を味わえる食事、地元神楽団による野外公演など独自のプログラム開発をおこなった。
- グランピングが地域に定着したことを受けて、運営主体を県外事業者から地域事業者に移行する取組が行われている。



© (株) wondertrunk & co.

グランピング施設遠景

三瓶山地域にはキャンプが楽しめる北の原、広大な草原の景観が広がる西の原など余暇を満喫できるエリアが存在する。新たな滞在環境の提供やリピーター率の向上といった取組の強化を図るため、西の原において夏から秋限定のグランピングを実施。ワーケーションのための快適な Wi-fi 環境とカメラなどの必要機材の貸出もおこなっている。



野外神楽鑑賞



神楽面の絵付け体験

I. 取組地域・関係機関

URL (一般社団法人 Local Treasures Lab、グランピング紹介) :
<https://tourismdaisen.com/>

- 所在地：
〒694-0223
島根県大田市三瓶町池田
3294
- 運営主体：
一般社団法人
Local Treasures Lab



II. 取組の経緯

- 2016年12月に策定された「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」のなかで、三瓶山地域においてグランピングのような上質な宿泊サービスの提供の検討が掲げられた。
- 2018年にグランピングと神楽やトレッキング等のアクティビティを組み合わせたファミトリップを環境省・運輸局・大田市の連携の下で試行的に実施。
- 2019年春には島根県・大田市事業としてグランピング宿泊体験を一般販売。
- 2019年秋から民間事業者による一般販売を実施。併せて、外国人モニターツアーやファミトリップを実施して、宿泊者が地元の人々との交流を楽しめるアクティビティを開発。

【取組年表】

- | | |
|----------|--|
| 2018年11月 | グランピング・ファミトリップを運輸局・大田市との連携の下で試行的に実施 |
| 2019年04月 | 4/27から5/6まで島根県・大田市事業としてグランピング宿泊体験を一般販売 |
| 2019年11月 | 民間事業者がグランピング宿泊体験の一般販売を実施 |
| 2020年～ | 民間事業者が夏から秋にかけてグランピング宿泊体験の一般販売を実施。朝日を眺めながらの「天空の朝ごはん」や神楽鑑賞等のアクティビティとのセットプランやワーケーションプランも販売。 |

III. 取組成果・ポイント

- 日常からスポーツ広場として利用されているところをグランピングサイトとすることで、簡易に移動できるテントを使用することで、植生への影響が最小限に抑えられている。
- お風呂は近くの温泉を利用してもらい(チケットを配布)、食事は地元食材を扱う隣接するレストハウスから提供。また地元神楽団による神楽公演や神楽面の絵付け体験、地場産品の収穫体験などのアクティビティ等と組み合わせることで地域の文化・食を体験できるだけでなく、地域経済への貢献も大きい。
- 宿泊プランにライトプラン(食事を持ち込み可とするプラン)をつくるなど、様々なプランを提供することで県内外の観光客だけでなく、地元の方を初め幅広い利用者層獲得の工夫がなされている。
- 域外の視点をもつ県外事業者が中心となって、地元関係者と連携しながら事業を展開してきたことで、地元の資源を活かした良質なプログラムの造成や地域の雇用創出に結びついている。



© (株) wondertrunk & co.

グランピングテントの室内



© (株) wondertrunk & co.

レストハウスから提供される食事

IV. 今後の課題・改善点

- より円滑で持続可能な運営に向けて、関係者間の役割分担や収益性の向上等について継続的な検討・取組を行う。

国際パークサポーターズの組織化と情報発信

- 関係する多様な主体が連携したプロモーション体制が十分でないことが課題であったことから、公園の魅力を紹介することを目的として、国際パークサポーターズを組織化。
- 対象は SNS 等による情報発信をおこなう外国人とし、2017 年度より国際パークサポーターズ等の在住外国人向けのイベントを開催。
- イベントの実施を通して、着地型旅行商品等の磨き上げや地元ガイドの外国人対応の蓄積につながり、外国人旅行者に対応した受け入れ環境整備を進める上で、参考になっている。



阿弥陀堂での座禅体験（サポーターズイベントの1例）

四季の変化に富んだ豊かな自然景観と歴史文化を有する大山隠岐国立公園の魅力を紹介するとともに、サポーターによる国内外への情報発信を促進する目的で実施している。阿弥陀堂でのイベントでは、国の重要文化財である阿弥陀堂を貸し切り、座禅体験をおこなった。国際パークサポーターズの特典として特製Tシャツや写真集の贈呈、公園内における外国人向けイベントの案内等がある。



サポーターズ集合写真



加入特典として配布しているTシャツ

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
大山隠岐国立公園全域
- 運営主体：
環境省 大山隠岐国立公園管理
事務所（鳥取県米子市）



II. 取組の経緯

- 「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」のなかで、関係する多様な主体が連携したプロモーション体制が十分ではないことが、課題として挙げられた。
- 大山隠岐国立公園の魅力を国外に紹介することを目的として、SNS 等による体外的な情報発信に協力する外国人を対象とした「大山隠岐国立公園パークサポーターズプログラム」を創設。
- 2017 年度は山陰 DMO と連携しつつ環境省主催で外国人による写真撮影会や国立公園写真展、国立公園紹介セミナー、スノーシューイベンなどのイベントを開催。以降も定期的にイベントを実施。

【取組年表】

- | | |
|----------|--|
| 2017年09月 | 大山隠岐国立公園国際パークサポーターズの立ち上げ、第1回認定式を開催 |
| 2018年02月 | パークサポーターズの活動の一環として、Japan Times に大山の記事が掲載 |

III. 取組成果・ポイント

- 大山隠岐国立公園に関心を持つ在住外国人のネットワークが形成された。2021年1月時点で17カ国、28名が登録し、公園の魅力を発信中。
- 2017年度に5回、2018年度に9回、2019年度に5回のイベントを実施。
- サポーターズ及び在住外国人向けイベントの実施を通して、イベントの行程に含められる着地型旅行商品等の磨き上げや、イベントで案内役等をつとめる地元ガイドの外国人対応の経験の蓄積、職能の向上等につながっている。
- 同様に、ツアー等の磨き上げや外国人向けサービス向上を目的とする、公園内で造成された／造成中の体験ツアー等のモニター募集の際などにも、サポーターズのネットワークを活用している。
- イベントに参加したサポーターズ等との意見交換は、海外に向けた当公園についての効果的な情報発信や、外国人旅行者に対応した受入環境整備を進める上で、参考になる部分が多い。



パークサポーターズのイベントチラシ

IV. 今後の課題・改善点

- サポーターズ及び在住外国人等のネットワークを維持・拡充する目的で、当省で定期的にイベントを開催しているが、予算の支出を伴う形で永続的に取組を行うことは困難であること。このため、持続的な取組／組織とするための検討が必要。

アクティビティ事業者のキャッシュレス化

- 国立公園満喫プロジェクトのなかで、民間活用によるサービス向上に関する取組があり、企業と環境省が相互に協力、世界に向けて国立公園の美しい景観の魅力を発信し、オフィシャルパートナーシッププログラムを推進。
- 阿蘇くじゅう国立公園においては、地方銀行による地域のアクティビティ事業者のキャッシュレス化支援を実施。
- 取組の成果として、阿蘇地域でのアクティビティ事業者のキャッシュレス率の上昇が認められた。



キャッシュレス講習会の様子

環境省は肥後銀行や鹿児島銀行、大分銀行、宮崎銀行の4行とSDGsの普及やESG融資の推進について2020年に連携協定を締結した。4行は気候変動に対応する社会の実現など地域循環共生圏の構築を目指し、国立公園の活性化に関しても連携する。その取組の1つとしてキャッシュレス化の推進をおこなった。



4 地方銀行との連携協定



国立公園オフィシャルパートナー九州地方連絡会議における情報共有

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
阿蘇くじゅう国立公園内及び
周辺地域
- 協力：
肥後銀行、鹿児島銀行、大分
銀行、宮崎銀行



II. 取組の経緯

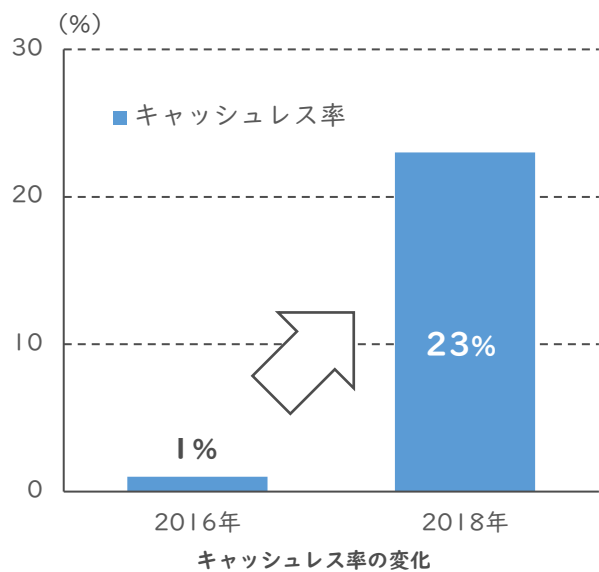
- 2017年の阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクト中間評価において、アクティビティ事業者等のキャッシュレス対応率の低さを把握。
- 地元銀行と連携し、クレジットカード普及を推進。
- 阿蘇広域観光連盟により観光、旅館、飲食事業者向けにカード決済の講習会を開催。

【取組年表】

2017年	アクティビティ事業者のキャッシュレス対応アンケート実施
2020年	地方銀行と連携し、クレジットカード普及を推進
2021年	観光関係の事業者向けにキャッシュレス決済講習会を開催

III. 取組成果・ポイント

- 地方銀行とオフィシャルパートナーを締結し、アクティビティ事業者のキャッシュレス化を推進、支援。講習会の実施以外にもキャッシュレス利用に必要なプリンターや表示端末購入に向けての補助金の情報提供など、側面支援もあわせて行った。
- 阿蘇地域アクティビティ事業者のキャッシュレス率の上昇。



IV. 今後の課題・改善点

- コロナ禍により非接触型決済のニーズが高まっており、より一層のキャッシュレス環境の整備が求められている。

費用の一部を草原維持に還元する体験プログラムの実施

- 阿蘇の草原は千年以上前から人々が放牧や採草、野焼きを行いながら利用されることで守られてきたが、農業の変化とともにその面積が減少し続けている。
- そうした背景を受けて、阿蘇に来てもらい、農産物を食べて、草原に親しみ、阿蘇の人々と交流し、ツアー費用の一部について草原を管理する牧野組合に保全料として支払う、草原を守るための取組として草原ガイドツアーが開発された。
- 認定ガイド制度を作ることで、登録ガイド付きでのみ草原でのアクティビティが体験できる。また草原の維持管理を目的として、アクティビティ参加者は一部草原維持費を負担している。



提供：NPO 法人 ASO 田園空間博物館

MTB ライドの様子

道の駅阿蘇を核として、3つの牧野組合、地域の観光業者、ボランティア有志らで組織する「牧野ガイド」を組織化。ガイドが率いる団体のみが牧野に立ち入ることができるという規約を設け、利用者にトレイルウォークやMTBを楽しんでもらう仕組み作りをおこなった。



トレイルウォークの様子 1



トレイルウォークの様子 2

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒869-2611
熊本県阿蘇市一の宮町
町古閑牧野・下萩の草牧野
- 実施主体：
NPO 法人
ASO 田園空間博物館



II. 取組の経緯

- 阿蘇くじゅう国立公園の貴重な資源である草原（牧野）の有効活用できる手法を検討し、地域振興対策として、普段は立ち入ることが出来ない草原を活用できないか、草原の管理者である牧野組合と調整。
- 阿蘇地域の草原の魅力や価値、草原維持の必要を伝える取組として牧野ガイド事業がスタートした。
- 登録されたアクティビティ事業者が参加者 1 人あたり 1,000 円の草原維持費を負担することを条件として、草原利用に関して合意形成された。
- 現在は認定ガイドがトレイルウォーク、トレイルラン、MTB ライドの 3 つのプログラムを提供。

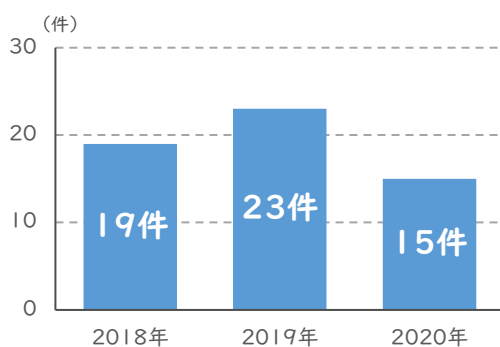
【取組年表】

2017 年	公園内の地域資源である草原を維持しながら、有効活用できる手法を検討
2018 年	登録ガイド研修が開始
2019 年	牧野ガイド事業スタート 農閑期（冬季）に限り、マウンテンバイク乗り入れ等の牧野ガイドが開始
2020 年	他の 2 牧野において、限定された地区に限り、トレッキング等の牧野ガイドが開始

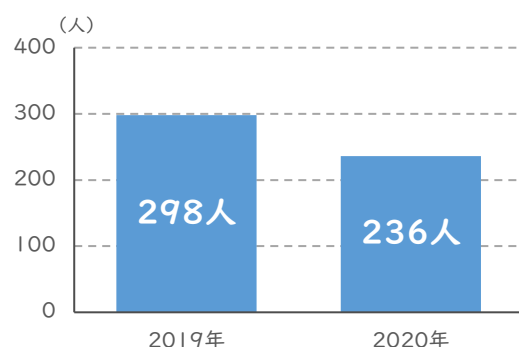
※なお、現在は 3 つの牧野組合（町古閑、下萩の草、西小園）で事業を行っている（2022 年 3 月現在）。

III. 取組成果・ポイント

- 普段、立ち入ることができない草原を登録ガイド付きで体験可能。草原トレッキングや、マウンテンバイクライドなどのプログラムが提供されている。
- ガイドの有効期間は 3 年で、登録にはガイド養成研修を受講する必要がある。
- 牧野ガイドの窓口がとりまとめている NPO 法人に一本化されており、利便性が高い。



登録事業者数の状況（合計 57 事業者）



牧野ガイド参加者数の状況

IV. 今後の課題・改善点

- 牧野ガイドで利用できる牧野数（草原）がまだ少ないため、今後、実績を積みつつ、牧野組合の理解を深め、利用できる牧野数を増やしていく。
- 牧野についての説明や各対象者に適したガイドの確保や育成、また無断での立入りに対するの周知
- ガイドなしでの開放利用にあたっては、口蹄疫対策や事業者向けの草原利用ガイドラインの策定など、より多くの人に利用してもらうにあたっての課題がある。

あざみ台展望所を舞台とした民間劇団の上演

- ・「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2020」の中で、草原やジオパーク等地域の魅力を活かしたアクティビティの開発が取組方針の1つとして挙げられた。
- ・竹田市に拠点がある世界的な和太鼓アーティストが活用できる野外劇場の設置を検討し、国や県、市村を中心に近隣地域との調整を進め、「野外劇場 TAO の丘」をオープン。
- ・2020年8月から12月までの87日間の公演で、1.2万が来場し、引き続き集客が多い状況が見込まれる。



あざみ台園地に整備された野外劇場

2020年8月、国や県、市が連携し、阿蘇連山を背景にする標高1,036mの丘に「野外常設劇場 TAO の丘」を設立。一般社団法人 TAO 文化振興財団が指定管理者として運営。財団が独自に改修建立した「TAO HOUSE」には、最新の映像が見られる大画面シアターや飲食施設などが併設されている。



野外劇場の全景



観客を魅了する効果的な演舞と音響

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒878-0205
大分県竹田市久住町大字白丹
7571-2
- 管理主体：
環境省、大分県、熊本県、
竹田市、産山村
- 実施主体
一般財団法人
TAO 文化振興財団



II. 取組の経緯

- 「日本初の和太鼓学院の創設」、「野外劇場を併設した芸術村の運営」、「地域の観光・文化事業振興への寄与」を目的として2015年に一般社団法人 TAO 文化振興財団を設立。
- 竹田市に拠点がある世界的な和太鼓アーティスト DRUM TAO が活用できる野外劇場の設置が検討。あざみ台園地の優れた自然景観を活用した劇場展望所を構想。
- 大分県、熊本県、竹田市、産山村を中心に、近隣地域との調整が進む。
- 2019年に合意形成が整い、着工を開始。2020年に野外劇場 TAO の丘としてオープン。

【取組年表】

2015年	一般社団法人 TAO 文化振興財団設立
2019年	合意形成が整い、着工
2020年	野外劇場の完成
2020年08月	野外劇場 TAO の丘としてオープン

III. 取組成果・ポイント

- 国立公園事業として、TAO 財団が既存の展望施設を改修し、舞台（展望所）は必要最小限の規模とし、景観に配慮した意匠となっている。
- 阿蘇山を遠景に、壮大な景観を望みながら迫力ある演舞を楽しめる空間づくり。
- 開放型施設の特徴を生かしつつ、コロナ対策（検温の実施、前後左右を空けた座席配置）を講じた運営を実施。
- 2020年8月から12月までの87日間の公演開催で1.2万人が来場。



自然景観そのものを舞台背景に設定
(背景は阿蘇五岳)

IV. 今後の課題・改善点

- 2021年3月から公演回数が増え、引き続き集客が多い状況が見込まれる。近接地域（ヒゴタイ公園など）への、演奏音に対する配慮が求められている。

阿蘇くじゅう NP を紹介する番組を放送

- 国立公園の魅力の世界に向けて発信し、国内外の利用者の拡大を図ることを目的とした国立公園オフィシャルパートナーシップを大分朝日放送株式会社と締結。
- 総務省情報流通行政局が公募する「放送コンテンツ海外展開強化事業」に大分朝日放送株式会社の提案が採択され、タイや台湾、香港、ベトナムの他、オーストラリアやニュージーランドへの展開を進めるための番組を制作。
- オフィシャルパートナー企業と個別に連携した施策の他、企業間での連携施策や国立公園と企業の具体的連携のコーディネートなど、より具体的・効果的な連携が課題。



オーストラリア向けに制作された番組「Going Solo in Japan～The Wonder of Kyushu」

オーストラリア向けに制作・放送された番組「Going Solo in Japan～The Wonders of Kyushu」。日本在住の人気Youtuber Currently Hannah氏が、三密を避けた温泉付きグランピング、阿蘇を望む世界的和太鼓集団の野外劇場、オーストラリアに輸出強化しているお酒や和牛、柚子胡椒等を紹介し、九州ならではのサステイナブルな旅の形を体験。

台湾での高視聴率地上波民放での放映
「大分を遊ぶバラエティ温泉旅」タイ最大の旅行博に参加し、県観光・地域振興課と連携
番組と連動した観光パンフを制作・配布

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
阿蘇くじゅう国立公園内及び
周辺地域
- 実施主体：
大分朝日放送株式会社
- 関係機関：環境省・総務省



II. 取組の経緯

- 「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2020」においては、阿蘇地域の災害復興が盛り込まれた方策となっており、さらなる自然環境の保全と利活用、地域の官民連携の推進が取組方針として示された。
- 2019年7月には、環境省と企業または団体が相互に協力し、国立公園の魅力を世界に向けて発信し、国内外の利用者の拡大を図ることを目的とした国立公園オフィシャルパートナーシップを大分朝日放送株式会社（以下、OAB）と締結。
- OAB では、総務省情報流通行政局が公募する「放送コンテンツ海外展開強化事業」に採択されたことで、海外展開を進めた。

【取組年表】

2015年～2017年度

放送コンテンツに関して、タイや台湾、香港、ベトナムに展開。番組の内容は人気の温泉地の他、熊本地震からの復興の様子、東九州自動車道開通、観光地やグルメ、アクティビティなど旅の魅力を紹介している。

2018年度

オーストラリアやニュージーランドでの海外展開。Network Ten（オーストラリア）やMedia Work（ニュージーランド）で放送

2019年7月

大分朝日放送(株)と国立公園オフィシャルパートナーシップを締結

III. 取組成果・ポイント

- OAB は、総務省情報流通行政局が公募する「放送コンテンツ海外展開強化事業」に5年連続で採択され、初採択を受けた2015年にはタイや台湾、香港、ベトナムにて放送。2018年度には「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」を見据え、オーストラリア、ニュージーランドでの地上波放送局で紹介し、のべ60万人の視聴を獲得する好評を得た。
- オーストラリアやニュージーランドの旅行者は、自然体験やアクティビティを好むことから、九州の魅力を伝えるべく有名ラグビー選手を起用し、阿蘇くじゅう国立公園とタッグを組んで番組を制作。
- その他、2020年度の滞在型ツアー・ワーケーション推進事業として、2021年に「やまはく・うみはく協議会事務局」をOAB内に設立し、阿蘇くじゅう国立公園の紹介とくじゅうや姫島、国東などのツアーを地元事業者と組んで造成している。
- モンベル、立命館アジア太平洋大学と連携し、体験型イベント「やまはく・うみはく」を実施。およそ1カ月間に7種11回のイベントを開催し、タデ原を歩く月夜のセラピーハイク、エコカーで巡る島旅などを地元と造成し、ほぼ全て満席となる盛況を得た。



番組の内容（温泉付きグランピング）



番組の内容（野外劇場 TAO の丘）

IV. 今後の課題・改善点

- OAB の海外展開の取組は、民間と連携したプロモーションの事例の1つとして全国的に注目度が高い。英語対応可能な施設やサービスが好評を得ているため、今後も多言語対応の施設やサービスが増えることが期待されている。
- オフィシャルパートナー企業と個別に連携した施策の他、企業間での連携施策や国立公園と企業の具体的連携のコーディネートなど、より具体的・効果的な連携が課題。

地方整備局、NEXCO と連携した国立公園プロモーション

- 国立公園に滞在する魅力を世界に向けて発信するとともに、ナショナルパークとしての利用環境の改善・向上を目指し、利用者の満足度向上と周辺地域の活性化につなげることを目的として実施。
- インバウンド誘客に対する連携協定を締結し、サービスエリア内での国立公園の PR イベントや道の駅での自然情報提供などを実施。
- 国内外からの観光客の観光周遊を促進し、公園へのアクセス性が高まったことにより、公園利用者の満足度向上や周辺地域の活性化につながっている。



「道の駅ゆふいん」における阿蘇くじゅう国立公園ブース（イメージ）

2019年6月に九州地方整備局、環境省、NEXCO 西日本、大分県の4者で、国立公園におけるインバウンド誘客に関する連携協定を締結。公園内のビジターセンターと道の駅、NEXCO 西日本と連携し取組をおこなう。NEXCO 西日本で発売した訪日外国人向け商品である「Kyushu Expressway Pass」は九州地域を訪れた外国人を対象にしたもので、定額料金で九州地域における NEXCO 西日本管理の高速道路が乗り放題となる。



連携協定締結式

Kyushu Expressway Pass の HP (NEXCO 西日本)
<https://global.w-nexco.co.jp/en/kep/>

I. 取組地域・関係機関

- 取組地域：
阿蘇くじゅう国立公園内及び
周辺地域
- 実施主体：
国土交通省、環境省、NEXCO
西日本、大分県



II. 取組の経緯

- インバウンド旅行者の二次交通の利便性を図るため、連携型プロモーションを実施。九州運輸局と連携し、福岡・熊本・大分空港等の交通拠点から景勝地・体験スポットへのアクセスに便利なガイドマップの配布。
- 2019年6月、阿蘇くじゅう国立公園におけるインバウンド誘客に関する連携協定を九州地方整備局、九州地方環境事務所、NEXCO 西日本、大分県の4者で締結。
- 「道の駅ゆふいん」において国立公園ブースの設置をおこない、九州高速自動車道サービスエリアにおいて、コンテンツ集等のパンフレットを配布。

【取組年表】

- | | |
|-------|--|
| 2018年 | 九州地方環境事務所作成のマップコード付きガイドマップをタクシー及びレンタカー事業者に活用を依頼 |
| 2019年 | NEXCO 西日本が高速道路乗り放題プラン（Kyushu Expressway Pass）を実施。九州高速自動車道サービスエリアにおいて、環境省作成コンテンツ集等を配布 |

III. 取組成果・ポイント

- 二次交通の利便性の向上としてインバウンド向け高速道路の乗り放題プランの実施。熊本地震で被災した JR に変わり、阿蘇くじゅう国立公園に入る二次交通としてレンタカーやタクシーの利用が急増。
- 九州地方整備局、NEXCO 西日本との連携し、特に北部九州のサービスエリアで、阿蘇くじゅう国立公園の PR イベントを実施。
- 国内外からの観光客の観光周遊を促進し、公園へのアクセス性を高めた。また道の駅やビジターセンター等が連携し、道の駅で季節の自然情報等を利用者へ提供した。
- 「道の駅ゆふいん」において、阿蘇くじゅう国立公園を紹介するブース及び国立公園エントランス看板の整備が進められており、2022年整備予定。



Kyushu Expressway Pass の案内チラシ

IV. 今後の課題・改善点

- 一過性の取組ではなく、継続した情報提供体制を構築することが重要。また、阿蘇くじゅう国立公園の観光・自然情報を道の駅やビジターセンター、サービスエリア等において共有できる体制作りを目指す。

佐多岬での国・県・町と連携した展望台・エントランス整備

- 公園南部に位置する佐多岬では、辻岳断層崖や海食崖といった地形が亜熱帯樹林などの植生や海域とも相まって、特徴的な景観を形成している。
- 同エリアにおいて、2012年から、環境省・鹿児島県・南大隅町が連携しながら再整備が行われ、2019年、佐多岬展望台を始めとした園地・道路などのエリア全体での一体的整備が完了した。
- 同整備の結果、利用環境が大幅に向上し、2019年の利用者数は約12万人となり、2016年の利用者数と比べて約3倍に増加した。



佐多岬展望台（完成時）

環境省、鹿児島県、南大隅町が連携し、佐多岬の雄大な風景を満喫できる360度見渡せる開放感のある展望台と合わせ、ユニバーサルデザインに配慮した展望台までの園路沿いに休憩・展望・記念撮影等のためのベンチ・四阿・案内板等が一体的に整備されたことで、同エリアにおける利用環境が大幅に改善された。



展望広場



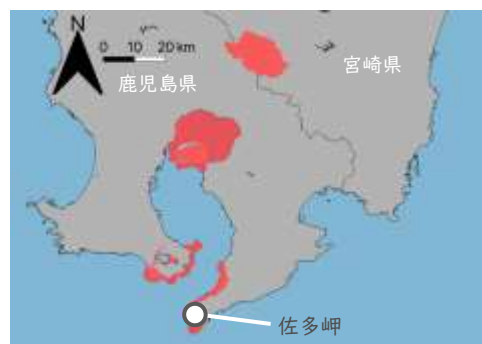
展望台1階から佐多岬灯台



観光案内所における貸出用電動アシスト付車椅子

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒893-2604
鹿児島県肝属郡南大隅町佐多馬籠 416-1
- 整備主体：
環境省、鹿児島県、南大隅町
- 管理・運営：南大隅町



II. 取組の経緯

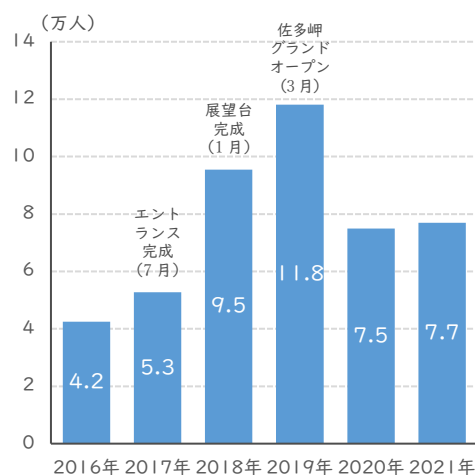
- 霧島錦江湾国立公園内の本土最南端・佐多岬において、岩崎産業による開発・運営を引き継ぐ形で、2012年度から、環境省・鹿児島県・南大隅町が連携しながら、一体的な再整備を進めてきた。
- 環境省が実施する佐多岬展望台及び園路の工事が2019年3月に完了し、2018年夏に鹿児島県・南大隅町が整備を完了した公園エントランス等とあわせて、佐多岬全体の整備が完了した。
- 現在は、環境省、鹿児島県の整備箇所を含め、南大隅町が一体的に同エリアの管理・運営にあっている。

【取組年表】

昭和30年代(1955~1964年)	岩崎産業が佐多岬の開発に着手
1964年	佐多岬ロードパーク供用開始
2007年	佐多岬ロードパーク廃止 岩崎産業から南大隅町へ一部道路区間の譲渡 同区間を町道佐多岬公園線として供用開始
2012年	同区間を町から県へ区域変更 同区間を県道佐多岬公園線として供用開始 別一部区間を岩崎産業から町へ売買 同区間を町道佐多岬公園線として供用開始
2013~2014年	佐多岬園地基本計画/佐多岬園地実施計画策定
2015年	佐多岬園地工事開始
2016年	北緯31度線記念モニュメント除幕式開催
2017年	公園エントランス供用開始記念式典開催
2018年	佐多岬展望台供用開始/岩崎與八郎顕彰碑除幕式開催
2019年	佐多岬グランドオープン記念式典開催

III. 取組成果・ポイント

- 本整備においては、環境省が「展望台」「展望台までの園路・広場」を整備し、鹿児島県が「公園エントランス」「北緯31度線展望広場」「第2駐車場」「ロードパーク道路」、南大隅町が「北緯31度線記念モニュメント」を整備するなど、連携した取り組みを行うことで、エリア内が一体的に整備され、利用環境の大幅な向上につながっている。なお、整備完了後の同エリアの管理・運営については、一体的に南大隅町が行っている。
- 佐多岬の雄大な風景を満喫できる360度見渡せる開放感のある展望台が整備され、好天時には、開聞岳や、遠く洋上に浮かぶ屋久島や種子島を望むことが可能である。
- 今回のユニバーサルデザインに配慮した一体的な整備を機に、車椅子（介助者付きに限る）で展望台まで到達できるようになった。さまざまな方が安心して訪問、景色を楽しむことができ、エリア内の観光案内所では電動アシスト付車椅子の貸し出しも行っている。
- 整備の結果、同エリアを訪れる利用者は増加し、2019年には2016年比約3倍の約12万人の利用者が佐多岬を訪れている。その後、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020~2021年の利用者数は減少。



佐多岬公園の年間利用者数推移
資料：南大隅町観光課

IV. 今後の課題・改善点

- 佐多岬エリアにおける一体的整備が完了し、一定の環境が整ったと考えられるが、今後は同エリアの自然環境と整備した施設を一体的に活用するさらなる取組を検討していく必要がある。
- また、トイレ・観光案内所等の施設の維持管理やサービス向上、環境保全につながるような「持続的な利用と保全」に資するため、駐車場等の利用料導入についても検討していく。

桜島におけるガイドツアー開発とガイド組織設立

- 公園南部の錦江湾地域では、現在も噴煙を上げ地域のシンボルともなっている桜島を中心に、薩摩半島側には開聞岳、大隅半島側には佐多岬、そして湾内の海域も含め特色のある景観が広がっている。
- NPO 法人桜島ミュージアムは、同地域において桜島をまるごと博物館と考え、現地で本物を見て、楽しみながら学べる地域を作るための観光まちづくり団体として発足。各種活動を行っている。
- 中でも、桜島の魅力を伝えるプロのガイドが行うガイドツアーは、火山を生きた教材として学ぶことのできるプログラムとして人気となっている。



火山ガイドウォーク（溶岩なぎさ遊歩道にて）

NPO 法人桜島ミュージアムでは、桜島の魅力を伝えるプロのガイドとしてガイドツアーや体験プログラムを行っている。同ツアー・プログラムでは、火山を肌で感じることもできる専門ガイドのガイド付きウォークや自然と防災を学べるトレッキングツアーなどが人気を博している。また、修学旅行向けの体験プログラムの提供、コーディネートを行っており、多い年では年間約 5,000 人の生徒受入を行っている。



桜島火山体感ツアー（湯之平展望所にて）



天然温泉掘り体験（有村海岸にて）

I. 取組地域・関係機関

URL (NPO 法人桜島ミュージアム HP) :
<https://museum.sakurajima.gr.jp/>

- 所在地：
〒891-1418
鹿児島県鹿児島市桜島小池町
1327
- 実施主体：
NPO 法人 桜島ミュージアム



II. 取組の経緯

- NPO 法人桜島ミュージアムは、桜島地域の活性化（観光とまちづくり）を目的として 2005 年に設立し、15 年以上にわたり活動を継続している事業型 NPO 法人である。
- 17 年目の現在も、地域貢献活動をしつつ、年間約 8,800 万円（2018(平成 30)年度）の収入を生み出し、「非営利活動」と「営利事業」を両立させている。
- 同法人では、桜島ビジターセンターの運営を行っている他、溶岩地帯に足を踏み入れて行うガイドツアーや、海と山を望む自然景観を活かした修学旅行の体験プログラムを開発し、多くの人に桜島の雄大な火山環境を体験してもらう活動、近年では移住者支援などの地域支援活動も行っている。

【取組年表】

2005 年	団体法人化 (NPO 法人桜島ミュージアム) 個人旅行向けガイド開始
2009 年	修学旅行、団体旅行受入 準備
2010 年	修学旅行、団体旅行受入 開始 (プログラム開発・人材育成の取組)
2019 年 09 月	体験プログラムツアーの実施 その後、各種講座/ワークショップの実施 (ジオ認定ガイドの取組)
2019 年 09 月	認定ジオガイド養成 初回オリエンテーション その後、8 回に渡り WS/講座/研修ツアーの開催
2020 年 02 月	質問・相談会の実施
2020 年 02~03 月	筆記試験/実地試験
2020 年 03 月	認定証授与式/認定審査振り返り

III. 取組成果・ポイント

1. 学習効果

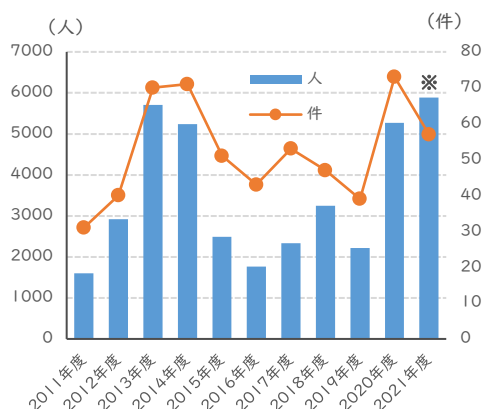
- 世界有数の活火山・桜島は、自然と人との共生を知るための生きた教材でもある。こうした認識のもと、修学旅行生を主な対象に、桜島の火山活動や災害・防災、そして桜島がもたらしてくれる恵みについて紹介するガイドプログラムを開発し実施している。

2. 他事業者との連携（選択の幅の拡大）

- 桜島に立地する製造業に協力いただき、火山灰を粘土や釉薬にまぜた陶芸体験、溶岩を加工する体験など桜島らしいモノづくり体験を、同法人が仲介するかたちで修学旅行向けプログラムとして提供している。島内事業者との連携が進展するとともに、修学旅行向けのプログラムの充実にもつながっている。

3. 地域経済への貢献

- 1 と 2 の結果として、各種体験に要する時間、およびそれに付随して昼食を桜島でとる時間など桜島での滞在時間が増え、地域経済に一定の貢献ができています。



NPO 法人桜島ミュージアムにおける
 修学旅行・団体旅行の推移
 (※2021 年度は 12 月まで)

IV. 今後の課題・改善点

- 収容人数が小さい施設が多く、また当法人のマンパワーからみても、200 名を超える人数の受入れが難しいこと。とくに、全員で同じ体験を希望される場合は、プログラムがバスツアーに限られ、人数も 160 名以内になってしまうなど、大人数の団体受入れに課題がある。
- また、現在は大きく分けて、ガイドプログラム、モノづくりプログラムの 2 ジャンル。ゲーム性のあるプログラムなど、参加者が退屈せずに楽しむことができ、かつ学習効果もある新プログラムの開発が必要と考えている。

ニシバマテラス等の展望台整備

- ゆっくりとした島の時間を過ごす「リトリート」の実現のために、長時間快適に休憩できる質の高い利用環境を整備すること、インバウンド対応のためビューポイントにおける多言語による解説サインの整備が取組方針に盛り込まれた。
- 「ケラマブルー」の眺望やシュノーケリングが気軽に楽しめる阿嘉島・北浜園地に「ニシバマテラス」を整備し、慶良間諸島らしい多島海景観のパノラマを望める座間味島・神の浜園地に「神の浜テラス」を整備した。
- Wi-Fi 環境の整備、多言語解説サインの設置により、滞在利用や魅力発信の促進が期待される。



2階カウンターからの眺望

「ニシバマテラス」は、慶良間諸島国立公園の座間味村阿嘉島北浜ビーチに位置する3階建ての展望施設で、特に日陰を確保した2階のカウンターテラスからは、ケラマブルーの海や島がおりなすパノラマ景観を目の前にして、ゆっくりとした時間を過ごすことができる。



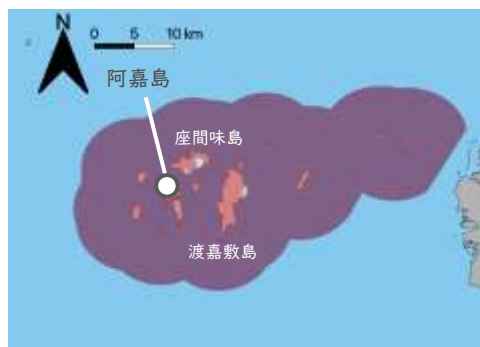
ニシバマテラスの全景写真



3階展望デッキからの眺望

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒901-3400
沖縄県島尻郡座間味村阿嘉
- 整備主体：環境省、座間味村



II. 取組の経緯

- 「慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2020」の中で、展望を楽しみながら長時間休憩できる質の高い利用環境整備と各ビーチや展望所における景観改善の検討が挙げられた。
- インバウンド対応のための施設整備として、ビューポイントを中心に Wi-Fi 環境、ユニバーサルデザイン化したトイレ、IT や AR を用いた多言語に対応した解説板や標識の整備に関しても取組方針に盛り込まれた。
- 座間味村設置の既存の展望デッキが老朽化していたため、座間味村が旧デッキを撤去した跡地に、環境省で整備を実施し、2018年7月に「ニシバマテラス」、2020年5月に「神の浜テラス」がオープン。

【取組年表】

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 2016年12月 | 「慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2020」に位置づけ |
| 2017年度 | 調査、基本・実施設計及び一部工事 |
| 2018年07月 | ニシバマテラス完成、Wi-Fi環境整や多言語解説サインを整備 |
| 2020年05月 | 神の浜テラス完成 |

【ニシバマテラス施設概要】

- 敷地面積：960.42m²
建築面積：35.46m²
(1階及び2階床面積 20.87m²、延べ面積 41.74m²)
1階 琉球石灰岩張床（主に海水浴客の休憩スペース）
2階 向テーブル3基、カウンターテーブル 12.6m
3階 屋上テラス（3階のみ車道からのバリアフリースロープ対応）

III. 取組成果・ポイント

- 慶良間諸島国立公園のシンボルである「ケラマブルー」の景観をゆっくりと満喫でき、「リトリート」体験が可能となる快適なビューポイントが確保された。
- 「ニシバマテラス」については、1階が琉球石灰岩貼りの日陰スペース、2階には海を見渡せるカウンター席とテーブル席、3階はバリアフリー対応の展望デッキとなっており、多様な利用形態に対応する快適な利用環境が確保された。
- 「神の浜テラス」については、慶良間諸島を代表する多島海のパノラマ景観や夕日、星空観察等、様々な時間帯を想定する体験プログラムの受入環境が確保された。
- 阿嘉島の「さんごゆんたく館」、座間味島の「青のゆる館」を拠点としたウォーキングツアーの利用等、特に、陸域を活用した冬期利用促進のための受入施設として有効活用が可能となる。
- Wi-Fi環境及び多言語解説サインを設置することにより、当公園の魅力発信の促進が期待される。



神の浜テラスの全景写真



阿嘉島の多言語解説サイン

IV. 今後の課題・改善点

- 施設の日常的な点検、メンテナンスについては、座間味村と維持管理に関する協定書を締結しており、今後、地元自治体と協力・連携しながら、年間を通じて清潔で快適な施設環境を保持していくことが重要になる。
- 施設機能を有効活用した滞在利用に関する情報発信、陸域における新たな体験プログラムの提案等、ソフト面の充実が求められる。

座間味島「青のゆるる館」の民間事業者による管理運営

- ・ 島内にはサンゴ礁の保全や自然に関する情報を来訪者が得る場所がないため、国立公園の総合案内機能を持った博物展示施設として整備が進められ、2021年3月10日に「青のゆるる館」として開館。
- ・ 観光協会が運営主体となっていることで、観光情報の窓口になるとともに、観光事業者と利用者からの情報が施設に集約される。今後、行政や民間が一体となり様々な取組に挑戦できる土台づくりが可能となった。
- ・ 今後の課題としては、施設認知度の向上や隣接するバス停の早期移設、収益向上と運営の安定化が挙げられる。



「青のゆるる館」の施設外観

「青のゆるる館」は、座間味港から集落に向かって正面に位置しており、座間味村の玄関口に整備されたビジターセンター。外観は赤瓦・花ブロック・琉球石灰岩・シーサーなど、沖縄らしさが随所に見られ、館内では5つのストーリーで慶良間諸島国立公園を紐解いていく展示を楽しめる。カフェも併設しており、コーヒーやサターアングイーを購入して休憩スペースでゆったりと過ごすことができる。



1階の展示スペース

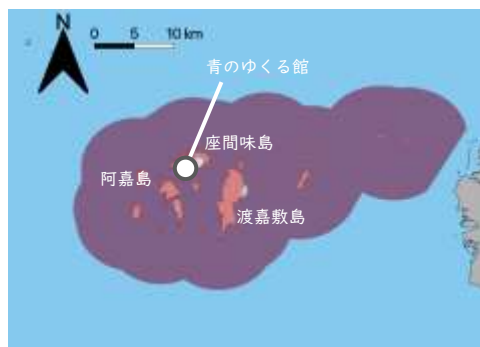


施設内に併設されたカフェ「Yukuruya」

I. 取組地域・関係機関

URL (一般社団法人 座間味村観光協会 HP) :
<https://www.visit-zamami.com/>

- 所在地：
〒901-3402
沖縄県島尻郡座間味村座間味
- 設置者：環境省
- 運営主体：
一般社団法人 座間味村観光協会



II. 取組の経緯

- これまでサンゴ礁を保全する取組や自然に関する情報を来訪者が得る場所がなく、国立公園指定時の指定書及び計画書内で、特にサンゴ礁等を中心とした博物展示施設を整備することが定められた。
- 施設を継続的に維持するため、カフェや物販サービスといった収益事業を行う民間事業者による施設運営を前提として整備を検討。
- 2017年に基本計画を策定し、2020年に本体・展示工事を開始。オープンに向けて物販商品の開発やカフェメニューの検討をすすめ、2021年10月に「青のゆる館」として開館。

【取組年表】

2014年	国立公園指定時の指定書及び計画書で「座間味地域の陸域や海域、特にサンゴ礁等を中心とした学習及び国立公園の総合案内のための博物展示施設として整備する」と定めた。
2017年	基本計画の整備
2019年	基本・実施設計の整備
2020年	本体・展示工事の開始。同年8月には管理運営事業者を公募し、9月に一般社団法人座間味村観光協会を選定

III. 取組成果・ポイント

- 観光協会の事業収益による施設運営のモデルとなる仕組みが構築できた。
- 観光協会が運営する施設であることから、観光事業者と利用者からの情報が施設に集約されている。総合的な観光情報の窓口となるとともに、来訪者にとって利用しやすい施設運営に役立ち、行政だけでは担えない地域一体的な取組に挑戦できる場所・土台づくりができた。
- 管理運営事業者選定後は観光協会主導を基本としつつ、事業計画を立てられるよう、環境省がサポートを行うことで、「リトリート空間の提供」や「サンゴ礁等の自然環境の保全」というコンセプトを体現するような、オリジナル商品を含め7点の物販商品を開館までに揃えることができた。
- 開館から年月を経て運営スタッフが変わっても施設の理念や想いを引き継いで運営していくため、設計やデザイン、建築、展示に関わった事業者の想いや、施設のコンセプトを表している施設名称とシンボルマークの解説等を掲載した施設紹介冊子を作成した。
- 施設自体は、利用者にとって滞在の選択肢が広がり、島人の交流の場にもなりつつある。



「青のゆる館」のオリジナルマグカップ



「青のゆる館」の施設紹介冊子

IV. 今後の課題・改善点

- 施設認知度の向上や施設利用者数が増加することで、利用拠点を活用した周遊が今後期待される。
- 施設で島内でのルール・マナーや保全活動について学んだ後に、島内観光を楽しんでもらうため、施設横へのバス停の早期移設を計画中である(座間味村で実施予定)。
- カフェメニューや物販商品の充実による収益向上と運営の安定化。
- 運営事業者(観光協会)が魅力的な商品開発を行うことで、島内事業者による土産品開発が進み、質の向上と地域の活性化につながることを期待。

支笏湖ビジターセンターにおけるVRプログラムの開発

- 支笏洞爺国立公園の利用拠点である支笏湖ビジターセンターやその周辺において、多言語での展示や情報提供の強化が課題であった。
- 高精度の360度カメラで撮影した樽前山の火口や苔の洞門、オコタンペ湖など普段立ち入ることができない場所の景色や、支笏湖の水中映像やカヌー、トレッキングを疑似体験できるVR映像を楽しむことができる、VRゴーグル、タッチモニターおよび200型シアターの3種類の放映機器を整備した。
- 多言語に対応しているため、幅広い利用者が楽しめるコンテンツとなっている。



VRゴーグルの利用

公園内の利用拠点である支笏湖ビジターセンターにおいて、2019年度に国際観光旅客税を活用したデジタル展示の整備をおこなった。高精度の360度カメラで撮影した樽前山の火口や苔の洞門、オコタンペ湖など普段立ち入ることが出来ない場所の景色やトレッキングやカヌーを疑似体験できるVR映像やスクリーンで閲覧することができる。



タッチモニターの利用

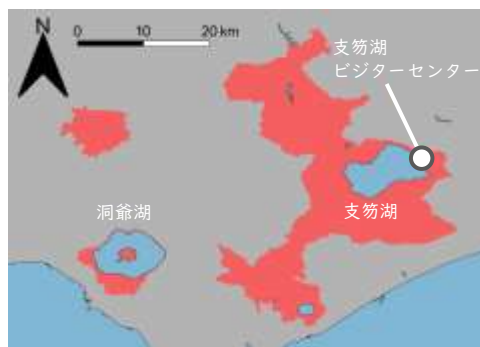


スクリーン投影による利用

I. 取組地域・関係機関

URL (一般財団法人 自然公園財団 支笏湖支部、取組の紹介):
<https://www.bes.or.jp/shikotsu/blog/21732/>

- 所在地：
〒066-0281
北海道千歳市支笏湖温泉
- 管理主体：
環境省 北海道地方環境事務所
- 運営主体：
一般財団法人 自然公園財団
支笏湖支部



II. 取組の経緯

- 支笏洞爺国立公園の利用拠点である支笏湖ビジターセンターやその周辺において、多言語での展示や情報提供の強化が課題であった。
- 2019年度に国際観光旅客税を活用し、訪日外国人を含めた公園利用者の現地滞在時間の延長やリピーターの増加を図ることを目的として、デジタル展示の整備を行った。
- 2020年6月に新型コロナウイルス感染症の社会的情勢を鑑み、供用を開始した。

【取組年表】

2019年06月	着工
2020年03月	完成
2020年06月	供用開始

III. 取組成果・ポイント

- VRコンテンツのご利用年齢に関するガイドライン (ロケーションベースVR協会)において、VRゴーグルの利用が禁止されている7歳未満のお子様においても利用できるよう、タッチモニターやスクリーン投影などゴーグル以外の機器を用意し、誰でも楽しめるよう整備した。
- ゴーグルに手持ち用のハンドルを取り付けることで、ゴーグルをかぶらなくてもVR映像をご覧頂けるような仕組みにした。
- 高精度の360度カメラで撮影した樽前山の火口や苔の洞門、オコタンベ湖など普段立ち入ることができない場所の景色や、支笏湖の水中映像やカヌー、トレッキングを疑似体験できるコンテンツが制作された。
- 日本語、英語、中国語(繁体、簡体)、韓国語、タイ語に対応し、訪日外国人を含めた幅広い利用者が楽しむことのできる仕様とした。
- 利用頻度の高いゴーグルにおいては、付近に除菌シートを常設し、使用の都度消毒が行えるようにするとともに、運営職員による定期的なVR機器の消毒作業により、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した。



お子様のタッチモニター使用イメージ



かぶらずに使用できるゴーグル

IV. 今後の課題・改善点

- 高頻度の利用に適した質の高いゴーグルやハンドルの導入。
- シルエットや使用時の没入感など単体で訴求力の高いゴーグルに比べ、モニターやスクリーンの認知がされにくいいため、POPの設置など利用者の注意を引きつける工夫を行っていく。

商店街エリアの電線地中化による景観改善

- 支笏洞爺国立公園の支笏湖温泉地区は湖畔の園地から恵庭岳や樽前山、風不死岳などが眺められ、ビジターセンター、園路、デッキ広場等が整備されている。
- 地区内の商店街を中心としたエリアにおいて、景観改善及び災害に強い地域づくりを目的とした電線地中化が進められた。電柱や建物への引込線が整理され、上空の視界の広さを感じられるとともに、周辺の日々や園地内の景観をより楽しむことができるようになった。
- さらに、風倒木による断線リスクや、近年問題である利用者へのカラス被害も低減でき、安全かつ安心な地域となることが期待される。

地中化前



地中化後



商店街湖側の景観の変化

地中化前



地中化後



支笏湖ビジターセンターからの景観の変化

支笏湖温泉地区の電線地中化により、各店舗に引き込む電線と電柱が無くなったことで景観改善に加えて防災・減災機能が強化され、災害にも強い地域づくりと場の魅力の向上を同時に進めることができた。

I. 取組地域・関係機関

- 所在地：
〒066-0281
北海道千歳市支笏湖温泉
- 管理主体：
環境省 北海道地方環境事務所



II. 取組の経緯

- 電線地中化は、2014年度の地元の再整備要望をきっかけとして検討を開始した。
- 支笏洞爺国立公園が日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標にした「国立公園満喫プロジェクト」の先行8公園に準ずる公園として指定された。
- 対象区域内の地元住民をはじめ、王子製紙（株）（電気）、NTT 東日本（通信）、NHK（テレビ線）の各事業者の協力と連携のもと、2019年度に設計に着手し、2020年度の工事において完成した。

【取組年表】

2014年10月	再整備地元要望提出
2016年度	支笏湖温泉地区の全体計画の策定
2018年度	全体基本設計の策定
2019年度	実施設計の策定
2020年06月	商店街エリア工事開始
2020年12月	電線地中化完了
2021年03月	供用開始

III. 取組成果・ポイント

- これまで、商店街の外周の電柱から各戸への配線が上空を遮っていたが、今回地中化では、埋設管路にて商店街内に設けた立上用電柱まで配線し、そこから各戸に配線を分配する手法により、利用者の多い商店街園路やデッキ広場周辺の電柱・電線を取り除き、電線のない空を実現した。
- 電気・通信ケーブル線の中継地点であるハンドホールの埋設、ケーブル線の配線路である管路の埋設および埋設後の舗装等作業にあたり、地域に対する事前の説明等を細かく行い、工事による公園利用者や地域住民への影響の低減を図った。
- ハンドホールや管路の埋設予定地に出現する埋設物に対して、関係機関と調整の上、埋設箇所の変更等、臨機応変な対応を行った。
- 電線地中化により発生する国有財産の使用許可（土地）に係る調整を、電気事業者（王子製紙株式会社）および通信事業者（NTT, NHK）と工事に並行して行った。



商店街内部立上柱から各戸へ配線を引き込む



埋設予定

IV. 今後の課題・改善点

- 電線の地中化により景観改善された対象地区において、公園利用者や地元の方々が快適に利用できるよう取り組んでいく。

ライチョウ観察ルールブック制作と観察ツアー試行

- 国内希少野生動物種であるライチョウは、絶滅危惧種である一方、人を恐れないその性質から配慮さえすれば観察することが可能で、ライチョウ観察が登山などのアクティビティの際の目的の一つとなるという観光資源の側面も有している。
- 訪日外国人を含む多くの日本の高山利用者の指針となるよう、ライチョウを観察するためのルールやマナーを周知するため、(一社)日本アルプスガイドセンターと共同で「ライチョウ観察ルールハンドブック」を作成。2021年度はルールブックをベースとしたガイドツアーを企画・実施。
- ルールブックとしてわかりやすく媒体化したことにより、ライチョウの切迫した事情への理解が深まり、ルールやマナーの周知が進んだ。



ライチョウ観察ルールハンドブック

ライチョウ観察ルールブックは全2OPで、観察のためのルールを伝えるだけでなく、なぜそれらが必要なのかを理解してもらうため、前段でライチョウの生態などをわかりやすく解説。加えてライチョウを専門的に撮影する写真家による写真をふんだんに掲載し、可愛らしいその姿にライチョウを親近感を持つことができる体裁としている。また環境省のライチョウ保護増殖事業なども紹介し、登山者やハイカーへの啓発に自然とつながる内容としている。



観察モニターツアーで出会ったライチョウ



中部山岳国立公園・乗鞍岳
ライチョウ観察モニターツアー

I. 取組地域・関係機関

URL (ライチョウ観察ルールハンドブック):
<https://thejapanalps.com/ptarmigan>

- 事業主体：一般社団法人
日本アルプスガイドセンター
- 協力：
環境省、高橋広平氏（雷鳥写真家）、小林正直氏（乗鞍白雲荘支配人）ほか
- ツアー主催：
（立山）株式会社 Travearth
（乗鞍）アルピコ長野トラベル株式会社



II. 取組の経緯

- 2019年にDMCとして発足した、(一社)日本アルプスガイドセンターにより、アウトドア観光情報サイト「The Japan Alps」が開設され、環境省の協力によりサイト内で野生動物のページが開設される。
- 2020年、ライチョウの保全を目的として、公園利用者や愛好家等に向け、ライチョウ遭遇時の観察方法をルール化する試みを日本アルプスガイドセンターと環境省が共同で行うことになった。
- 2021年には、ツアーガイド養成研修会の他、ルールブックをさらに広く浸透させるために、ルールブックをベースとした「日本アルプスライチョウ観察ガイドツアー」を企画、実施をした。

【取組年表】

2019年04月	一般社団法人日本アルプスガイドセンター設立
2019年07月	ウェブサイト「The Japan Alps」開設
2019年12月	「野生動物の観察」ページ開設
2020年07月	ライチョウ観察ルール化に向けて始動
2020年09月	「ライチョウ観察ルールハンドブック」発行
2020年09月	ハンドブックを関係者やライチョウファンへ配布
2020年10月	中部山岳国立公園・乗鞍岳において、ハンドブックを教材としたライチョウ観察のモニターツアーを実施
2021年06月	日本アルプスライチョウ観察ガイドツアーのツアーガイド養成研修会を開催
2021年06~07月	立山および乗鞍エリアにおいて、ライチョウ観察ガイドツアーを実施

III. 取組成果・ポイント

- 希少な野生動物の中でも絶滅危惧種であるライチョウへの関心が高まる中、その生態や観察方法などが必ずしも知られていなかったが、今回観察ルールをハンドブックとしてわかりやすく媒体化したことで、大きな反響を呼んだ。
- ライチョウを取り巻く環境の変化、環境省の取り組みなどが公園利用者や愛好家等に届き、切迫した事情への理解が深まるとともに、ライチョウを身近に感じる機会ができることも周知が進んだ。
- 21年度に開催したツアーガイド養成研修会は、立山および乗鞍エリアの各山岳ガイド協会に所属する、日本山岳ガイド協会認定資格者37名を対象におこなった。その後のライチョウ観察ガイドツアーには、応募期間が限られた短い中でも、7回のツアーに23名が参加した。
- 山のプロガイドによるライチョウツアーの高付加価値に参加者の満足度は高く、この枠組みでの新たな山岳観光ツアーのきっかけ作りとなった。また各メディアでの反応が高く、朝日新聞や信濃毎日新聞、長野朝日放送等で今回の取組が紹介された。



ガイド養成研修会の様子



観察ガイドツアーの様子

IV. 今後の課題・改善点

- ハンドブックやウェブサイトで情報を発信するだけでなく、ライチョウを実際に観察する機会を多くの人に持ってもらえることが重要である。ツアーを持続化できる基盤が必要で、さらにはツアー参加費の保護活動への還元や、地域の活性化・ブランディングにもつながる仕組みを構築したい。
- 野生動物観察のツアーを進めていくにあたっては、野生動物や自然環境に関する幅広い知見を有したガイドが欠かせないため、外国語対応を含めた人材育成が急務である。

妙高山・火打山における入山協力金導入

- 良好な自然環境の保護と持続可能な利用を推進するため、全国の自然地域において入域料の導入に係る検討が行われている。
- そうした中で、妙高山・火打山では、登山者を対象に入山料を徴収する社会実験を2018年より開始、2019年も引き続き実施して、徴収人数及び協力率、徴収金額、登山者の入山料導入に対する意向などの調査を行った。
- その結果、実現に至るための協力金の徴収方法及び周知・情報発信のあり方などの検討に繋がり、2020年からは地域自然資産法に基づいた入山協力金の徴収に繋がっている。



入山協力金の徴収箇所

「妙高山・火打山地域自然資産地域計画」に基づき2020年7月1日から妙高山・火打山において入域料の收受を始めている。地域自然資産法に基づく入域料としては、竹富島に続き国内2例目となり、徴収した入域料については妙高山・火打山周辺の自然環境保全や登山道整備等に充当し、持続可能な国立公園の利用に役立てている。



協力金徴収のための周知ポスター

I. 取組地域・関係機関

URL (YAMAP HP、妙高山・火打山の入域料に関する紹介) :
<https://yamap.com/magazine/27956>

- 取組地域：
新潟県妙高市
笹ヶ峰登山口および
燕温泉登山口
- 実施主体：妙高市



II. 取組の経緯

- 良好な自然環境の保護と持続可能な利用を推進していくため、2018年に、妙高山・火打山への登山者を対象とした入山料徴収のあり方検討と、徴収の試行が行われた。
- 前年の結果を踏まえて、2019年は実施期間を拡大して、引き続き入山料徴収の社会実験が行われた。
- 協力金は自然環境保全のため、500円の協力金を任意で依頼し、徴収は収受員もしくは協力金箱によっておこなった。
- あわせて、地域計画に基づいて2020年7月から入域料の収受を行うために、2019年6月に検討部会を設立し、第1回検討会議を行った。その上で、社会実験を行いつつ、並行して地域計画案を作成した。
- 社会実験終了後の12月以降に第2、3回検討会議を開催し、社会実験の結果を踏まえた計画案を作成。同計画案に対して広く意見をもらうために、パブリックコメントを3～4月に実施し、5月以降に最終調整を行った上で、6月に地域計画の策定、公表が行われた。



火打山 (出典：PAKUTASO)

III. 取組成果・ポイント

- 2018年は、妙高山・火打山への登山者を対象に、3登山口での自然環境保全協力金の徴収を行い、10月1日～21日の実施期間21日間で、2,963人の協力者、合計1,460,277円(平均支払額493円)の協力を得た。全登山者に対する協力者の割合は75.1%であった。
- 2019年は、実施期間を7月～10月の123日間に拡大し、4登山口での徴収で、計5,434人の協力者(協力率67.6%)、合計約370万円の協力金を徴収した。その結果、収入-支出の次年度事業充当費は約188万円となった。
- 同期間に実施した登山者へのアンケート調査には、930人が協力し、今後の妙高山・火打山における協力金制度の導入については、56.3%が「原則登山者全員が支払うべき」と過半数となり、「協力したい人が支払うべき」とした回答は39.0%となった。
- これらの社会実験を通じて、妙高山・火打山における入山協力金の徴収における登山者の意向把握、効果的な徴収手法及び周知・情報発信のあり方の検討に繋がり、その後、地域計画に基づいた入域料の収受へとつながった。地域自然資産法に基づく入域料としては、竹富島に続き国内2例目の事例となった。



笹ヶ峰協力金収受



燕温泉アンケート調査

志賀高原におけるナイトタイム利用の促進

- 志賀高原ビジョンを踏まえた施策の方向性の 1 つとして、「志賀高原の玄関口として」の山の駅を拠点にナイトバスやスキー場間の周遊手段の確保など二次交通の充実を図ることが挙げられている。
- 夜間の滞在満足度や飲食店利用の利便性の向上を図るため、期間限定で土曜日の夜を中心に、山ノ内町の志賀高原で無料の「ナイトシャトルバス」を運行した。
- 地域関係者の協力のもと、ナイトタイムコンテンツ活性化に向けた機運を高めることにつながった。



ナイトシャトルバス

志賀高原での夜間コンテンツ充実やアフタースキーの充実に向け、地元との連携によりナイトシャトルバスを冬季に試験運行。1月から3月までの間に14日間運行し、利用者は372名となった。



賑わうナイトコンテンツ（レストラン）



志賀高原歴史記念館 夜間点灯

I. 取組地域・関係機関

URL (志賀高原観光協会 HP) :
<https://www.shigakogen.gr.jp/>

- 所在地：
〒381-04001
長野県下高井郡山ノ内町平穏
- 実施主体：
環境省、志賀高原観光協会、
一般財団法人 長野経済研究所



II. 取組の経緯

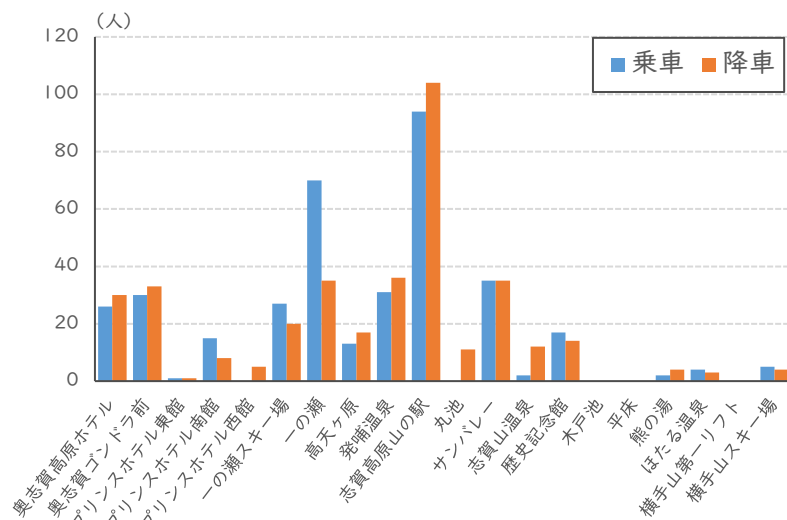
- 山ノ内町が満喫プロジェクト展開事業に採択され、スノーモンキーによるインバウンド増加傾向を志賀高原への観光客増加に繋げるため、ファミトリップ等を実施。
- 志賀高原全域活性化のための志賀高原環境整備検討委員会が発足し、インバウンド誘客も含め今後のあり方について地域の合意形成を図ることとした。
- 展開事業終了後で見えた課題として、より魅力的な滞在環境整備のためアフタースキーを充実させることが挙げられ、受け入れ態勢の整備が地域の課題として共有された。
- アフタースキーの充実に向けたナイトバスの走行について検討を開始し、その必要性についても調査を行った。

【取組年表】

2016年	蓮池地区を志賀高原の玄関口として位置づけ、それに相応しい環境整備を行うため、蓮池周辺整備検討委員会を発足
2017年	山ノ内町が国立公園満喫プロジェクトの展開事業に採択、志賀高原環境整備検討委員会が発足
2018年	国立公園満喫プロジェクトの展開事業終了委員会が「志賀高原ビジョン」を作成
2019年	インバウンド受入体制整備に向けた施策の一環として、アフタースキーの充実に向けたナイトバス走行の検討を開始
2020年	ナイトバスの必要性について調査実施 その後の事業展開について検討をおこなうことで合意

III. 取組成果・ポイント

- 夜間走行するバスのニーズ調査を実施し、1日平均約26名の利用があった。利用者アンケートからはナイトタイムコンテンツの更なる展開の要望が多く認められた。
- 地域関係者の協力のもと、地域共通の財産で文化的ストーリーのある「志賀高原歴史記念館」や志賀高原の玄関口である「志賀高原山の駅」を活用し、ナイトタイムコンテンツとして周遊ルートに取り入れ、地域のナイトタイムコンテンツ活性化に向けた機運を高めることができた。
- 観光協会の協力のもと、夜間に利用できるコンテンツや夕食等ナイトタイムを魅力的に紹介し、観光協会などのSNSや各施設HPを通じて情報発信をおこなった。



各バス停におけるナイトシャトル利用状況集計

IV. 今後の課題・改善点

- コロナ禍の影響もあり、訪日外国人旅行者の利用は比較的に少なかった。過年度の状況を踏まえると外国人旅行者のナイトタイムコンテンツのニーズは高く、ナイトバスの利用率も高いと考えられるので、外国人旅行者が安心してナイトバスを利用できる情報発信等の環境作りが必要。
- ナイトタイムにおける安心・安全な滞在環境の提供。照明は町並み景観にも影響するため、コンテンツ提供・町並み景観改善の両軸で検討を行う必要がある。

オフィシャルパートナーとの連携

- 環境省と企業又は団体が相互に協力し、日本が世界に誇る国立公園の美しい景観と、国立公園に滞在する魅力を世界に向けて発信し、国内外からの国立公園利用者の拡大を図ることで、内外の人々の自然環境の保全への理解を深めるとともに、国立公園の所在する地域の活性化につなげるために実施している。
- 2016年11月に設立し、これまで9回の締結式が開催されており、2022年3月時点で119社の企業等とパートナーシップが締結されている。締結期間は、締結時から2025年12月31日まで。



国立公園オフィシャルパートナーシップ第7回締結式

【ロゴマークについて】

ロゴマーク全体は「日の丸」をイメージした中に、緑色で山や森、青色で海あるいは湖を表すことで、全体として日本の国立公園を表現しています。白い山の稜線は、これから伸びていくイメージとともに、アルファベットのNに見えることから、NatureのN、National ParkのN、そしてNipponのNという思いも込めています。

飛んでいる2羽の鳥はイヌワシをイメージしています。イヌワシは、ずっと同じペア関係を維持すると言われていたことから、この2羽でパートナーシップを表現しています。



国立公園オフィシャルパートナーロゴマーク

I. 取組の概要

- 環境省との国立公園オフィシャルパートナーシップ締結を希望する企業は、「国立公園オフィシャルパートナーシップ プログラム実施規約」に則り、国立公園の魅力発信に係る取組案を作成し、環境大臣に提案する。取組案が同規約に掲げる以下要件に該当すると認められるとき、パートナーシップを締結することができる。
 - 日本の国立公園の魅力を国内外に広く発信するものであること
 - 日本の国立公園の魅力を適切かつ効果的に伝えるものであること
 - 取組の内容が具体的であり、実現性が認められること

II. 取組事例

<p>アルピコ交通株式会社</p> <p>取組内容</p> <p>中部山岳国立公園に関するプロモーション動画の放映 外国人旅行者の多い長野県内の交通拠点施設や、当社が運行する電車車内において国立公園に関する動画を放映します。</p> <p>国立公園に関するパンフレット設置 中部山岳国立公園や群馬県利根川国立公園へのアクセス拠点施設に国立公園に関するパンフレットを設置します。</p> <p>中部山岳国立公園や妙高戸隠連山国立公園における観光・滞在の円滑化 中部山岳国立公園や群馬県利根川国立公園において外国人を含めた旅行者が公園内の観光・滞在を円滑に行えるようバスのフリーパスを販売します。</p> <p>公式ホームページ ▶▶▶ https://www.alpico.co.jp/traffic/</p>	<p>株式会社AirX</p> <p>取組内容</p> <p>日光国立公園におけるヘリコプターによる移動、現地遊覧の実施 東京から日光(EDO WONDERLAND 日光江戸村)までヘリコプターによる移動と、日光国立公園を空から楽しむ現地遊覧を実施しました。</p> <p>伊勢志摩国立公園におけるヘリコプターによる移動、現地遊覧の実施 東京から伊勢志摩までヘリコプターによる移動と、伊勢志摩国立公園を空から楽しむ現地遊覧を実施しました。</p> <p>詳細の詳細はこちら ▶▶▶ https://skyview.aiox.jp/caravans/nikko_edo_wonderland</p>
<p>株式会社大分銀行</p> <p>取組内容</p> <p>国東半島での「周年放牧」事業の展開 瀬戸内海国立公園エリアの国東半島地域において、荒廃農地等の未利用地を活用して両市年(和牛)の繁殖事業を1年中放牧地で行う「周年放牧」を推進しています。</p> <p>高崎山周辺の別大園遊覧路で「べつだいウォーク」を特別企画 恒例大分毎日マラソン大会と同日に開催するイベントとして実施、国際的なスポーツイベントである別大マラソンの選手を周辺に感じながら、大分市と別府市を結ぶ別大園遊の風光明媚なウォーキングコースを、大勢の仲間と歩く特別な体験ができます。</p> <p>出行雑誌で大分県内2つの国立公園を紹介 旅行雑誌「大分県」の地域紹介特集にて、大分県内にある阿蘇くじゅう国立公園と瀬戸内海国立公園を「大分絶対絶景主義」と題して紹介しました。</p> <p>公式ホームページ ▶▶▶ https://www.oitabank.co.jp/</p>	<p>スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社</p> <p>取組内容</p> <p>新浜野内店舗における国立公園の情報発信 2020年3月18日に障壁者専用「国民公園「新浜野内」」に訪問企業として初めてオープンしたスターバックス コーヒー 新浜野内店は、新浜野内の豊かな自然に囲まれたロケーションを存分に活かし、国産木材利用や資源循環のアクションの継続的な実施のほか、新浜野内や国立公園の美しい景観と魅力を多くの方に知っていただくため、環境省と協業し、店内のパンフレット設置などを通じて情報発信を行っています。</p> <p>スターバックスはこれからも、私たちをほぐむ豊かな地域や地域の恵みに敬意を払い、国籍・世代を超えた多様なお客様、パートナー(従業員)と共に、サステナブルな未来をつくるアクションに積極的に取り組んでいます。</p> <p>詳細の詳細はこちら ▶▶▶ https://www.starbucks.co.jp/press_release/pr2020-3425.php</p>

出典：国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム紹介冊子より抜粋
<https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/pdf/2021/partnership.pdf>

国立公園満喫プロジェクト取組事例集

令和4年3月

環境省 自然環境局 国立公園課

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [A ランク] のみを用いて作製しています。

National
Parks
of Japan

